# 鋳鉄管類規格の変遷

JDPA T 50



ー般社団法人 日本ダクタイル鉄管協会

#### 1. はじめに

わが国において鋳鉄管が使用されるようになったのは、明治初期のことであり、当時ヨーロッパより輸入された鋳鉄管が使用されていました。その後、明治中期になってわが国において鋳鉄管の製造が始まるとともに全国に普及しました。

大正3年、わが国最初の鋳鉄管規格が制定され、以後、材質、継手の構造、製造方法などの技術革新により、さまざまな規格が制定、改正及び廃止され現在に至っています。

本書は、年代順に水道、下水道、工業用水道及び農業用水用鋳鉄管類の規格をまと めたものです。

#### 2. 鋳鉄管の材質及び製造方法

近代工業の発展に伴い、わが国の鋳鉄管の材質は、普通鋳鉄、高級鋳鉄からダクタイル鋳鉄に変わり、製造方法(直管)は、置注鋳造法から遠心力鋳造法に変わりました。 材質の移り変わり及び製造方法の開発の歴史を下表に示します。

#### 鋳鉄管の材質の変遷

年 次	材質
1890年頃~1940年頃	普 通 鋳 鉄
(明治中期~昭和10年代中頃)	(抗張力20kgf/mm°未満)
1930年頃~1970年頃	高 級 鋳 鉄
(昭和5年頃~昭和40年代中頃)	(抗張力20kgf/mm²以上)
1954年以降	ダクタイル鋳鉄
(昭和29年以降)	(球状黒鉛鋳鉄)

#### 鋳鉄管(直管)の製造方法の開発の歴史

年 次	鋳	造	法
1893年(明治26年)	※置注鋳造法	(合わせ型	型横込め鋳造法
1900年(明治33年)	※置注鋳造法	(立吹鋳造	造法)
1908年(明治41年)	※置注鋳造法	(回転盤式	(立吹鋳造法)
1940年(昭和15年)	※砂型遠心力銀	寿造法	
1950年(昭和25年)	金型遠心力能	寿造法	
1957年(昭和32年)	サンドレジ	ン型遠心力	]鋳造法

備考 ※の製造方法は、現在実施されていません。

## 3. 鋳鉄管の各種規格の名称

鋳鉄管の各種規格名称の移り変わりを下表に示します。

## 鋳鉄管の各種規格名称の移り変わり

		2,2,7,1,2,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,	115-12 12 2 12 2	
年 次	国家規格	(公社)日本水道協会規格	各種規格 (公社)日本下水道協会規格	(一社)日本ダクタイル鉄管協会規格
1904年	1	(公任)日平小坦励云规恰	(公任)日平下小坦励云规恰	(一位)日本タクタイル鉄官協会規格
(明治37年)	l <del></del>	【上水協議会設立】		
1914年	-			
(大正 3年)		上水協議会規格		
	口术描述刊物			
1928年 (昭和 3年)	日本標準規格 (JES)			
	(000)			
1932年 (昭和 7年)	<b> </b>	【(社)水道協会】		
1939年 (昭和14年)	臨時日本標準規格			
	(臨JES)			
1947年	l ——			【鋳鉄管倶楽部設立】
(昭和22年)				
1948年	<u> </u>			【鋳鉄管協会】
(昭和23年)	1	(ナレ) かとわ ヘ 40 4か		
1951年	l ——	(社)水道協会規格		
(昭和26年)		(JWSA)		
1953年	日本工業規格	- <u></u>		
(昭和28年)	(JIS)			
1956年		【(社)日本水道協会】		
(昭和31年)		(社)日本水道協会規格		
		(JWSA)		
1957年				   鋳鉄管協会標準仕様書
(昭和32年)	ļ			
1959年	<u> </u>			鋳鉄管協会仕様書
(昭和34年)				
1964年			【(社)日本下水道協会設立】	
(昭和39年)		/II \ I I \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		
1965年	<u> </u>	(社)日本水道協会規格		【日本鋳鉄管協会】
(昭和40年)		(JWWA)		日本鋳鉄管協会規格
1967年				日本鋳鉄管協会(標準)
(昭和42年)				
1968年	l			日本鋳鉄管協会規格
(昭和43年)				(JCPA)
1977年				【日本ダクタイル鉄管協会】
(昭和52年)	<u> </u>			日本ダクタイル鉄管協会規格
(				(JDPA)
1984年			(社)日本下水道協会規格	
(昭和59年)			(JSWAS)	
0010年			【(公社)日本下水道協会】	【(一社)日本ダクタイル鉄管協会】
2012年	l ——		(公社)日本下水道協会規格	(一社)日本ダクタイル鉄管協会規格
(平成24年)			(JSWAS)	(JDPA)
0010 <i>F</i>	1	【(公社)日本水道協会】		
2013年	l ——	(公社)日本水道協会規格		
(平成25年)		(JWWA)		
	1		1	

### 4. 鋳鉄管類の規格の変遷

- (1) 規格年表
  - ・鋳鉄管の規格年表を4~9頁に示します。
  - ・塗覆装、表示などの規格年表を10~13頁に示します。
- (2) 規格の変遷

鋳鉄管類の規格の変遷を14~67頁に示します。

# 鋳鉄管の規格年表(1/3)

年 号	1920 年 (T9 年)	1930 年 (S5 年)		l0 年 5 年)	1950 年 (S25 年)
日本工業規格類					
JES 第80号類別G21 水道用鋳鉄管規格		S3年	S 12 年		
JES 第 272 号類別 G36 水道用高級鋳鉄管規格			S9年		S 29 4
臨 JES 第11号類別G 水道用高級鋳鉄薄手管規格	3		S 14 年		S 29 年
臨 JES 第 328 号類別G 水道用遠心力砂型鋳鉄管	臨時規格		 	S17年	S 29 年
土木工事戦時規格				S18年 ●	-
JIS G 5521 水道用立型鋳鉄管			 		S 29 年
JIS G 5522 水道用遠心力砂型鋳鉄管			1		S 29 年
JIS G 5523 水道用遠心力金型鋳鉄管					S 29 年
JIS G 5524 水道用鋳鉄異形管			 		S 29 年
JIS G 5526 ダクタイル鋳鉄管					
JIS G 5527 ダクタイル鋳鉄異形管			 		
(公社)日本水道協会規格類	1920 年 (T9 年)	1930年 (S5年)		10 年 5 年)	1950 年 (S 25 年)
	「3年	(33 )/	S 12 年		
水道用鋳鉄管規格	T1	4年 S3年			
水道用高級鋳鉄管規格			88年		S 29 ±
水道用高級鋳鉄薄手管規格			S13年 S	14 年	
水道用高級鋳鉄管臨時規格			S15	年	
水道用砂型遠心力鋳鉄管臨時規格				S17年	
水道用遠心力金型鋳鉄管	<u> </u>	-i	<u> </u>		S 25 年 S 29 年
水道用鋳鉄異形管実用管種表(厚生省監修)					
JWSA G 102 水道用メカニカルジョイント形鋳鍋	<b></b>				
JWSA G 103 水道用メカニカルジョイント形鋳鉤	<b></b> 失異形管				
JWSA G 105 水道用遠心力ダクタイル鋳鉄管					
JWSA G 106 水道用ダクタイル鋳鉄異形管					
JWWA G 108 水道用遠心力鋳鉄管					
JWWA G 109 水道用鋳鉄異形管					
JWWA G 110 水道用T形遠心力ダクタイル鋳鉄管	<u>*</u>				
JWWA G 111 水道用T形ダクタイル鋳鉄異形管					
JWWA G 113 水道用ダクタイル鋳鉄管					
JWWA G 114 水道用ダクタイル鋳鉄異形管					
JWWA G 114-2 水道用うず巻式ダクタイル鋳鉄フ	フランジ付きT字管	管(消火栓用)			
JWWA G 120 水道用GX形ダクタイル鋳鉄管					
JWWA G 121 水道用GX形ダクタイル鋳鉄異形質	 <del>-</del>				

備考1. ● は制定、◆ は改正、◆ は改正、◆ は廃止を示す。 2. 規格名称は、最新のものを記載した。

1960年 (S35年)	1970 年 (S 45 年)	1980 年 (S55 年)	1990 年 (H2 年)	2000 年 (H12 年)	2010年 (H22年)	2020 :
		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	
		S 58	在!			
		S 58	年			
		\$58	1			
		530	+			
			H元 年			
	0.44	-	•			
	S 4!	9!年				
	S4!	9¦年	-	1		
	•	<del>  •   •  </del>	•	•	•	
1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2020
(S35年)	(S45年)	(S55年)	(H2年)	(H12年)	(H22年)	
S37年						
337 #						
S34年	S 44 年					
•	<b>─</b>					
S34年	S 44 年					
S36年	S4!	9.年				
•	<del>-                                    </del>					
S 36 年	S4	9;年				
	S 44 年	S57年				
	• i					
	S 44 年	S57年				
		C 5.7 #				
	S 48 年					
	S 48 年	S57年				
	•	1	!			
		S57年		***		
		S57年	i ř			
		•	• •	***	<b>+ + -</b>	
			H5年	H11年		T
					H25_年	
						<b>—</b>
		<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	1 1105 /5	
					H25 年	

# 鋳鉄管の規格年表(2/3)

年 号	1920 年 (T9 年)	1930年 (S5年)	1940 年 (S15 年)	1950 年 (S25 年)
(公社)日本下水道協会規格				
JSWAS G-1 下水道用ダクタイル鋳鉄管				
JSWAS G-2 下水道推進工法用ダクタイル鋳鉄管	5			
(一社)日本ダクタイル鉄管協会規格	1920 年 (T9 年)	1930 年 (S 5 年)	1940 年 (S15 年)	1950年 (S 25年)
水道用メカニカルジョイント型鋳鉄直管、鋳鉈	株異形管及び付属品			
メカニカル型水道用遠心力砂型ダクタイル鋳鍛	<b>共直管</b>			
メカニカル型水道用立型ダクタイル鋳鉄直管				
メカニカル型水道用ダクタイル鋳鉄異形管				
K形遠心力ダクタイル鋳鉄管				
K形ダクタイル鋳鉄異形管				
JDPA A 3000 ダクタイル鋳鉄管、異形管及び接	合部品-共通仕様-	-		
JDPA G 1001 K形遠心力ダクタイル鋳鉄管				
JDPA G 1002 K形ダクタイル鋳鉄異形管				
JCPA G 1003 タイトン形水道用遠心力ダクタイ	ル鋳鉄管			
JCPA G 1004 タイトン形水道用ダクタイル鋳鉄	異形管			
JDPA G 1007 U形遠心力ダクタイル鋳鉄管				
JDPA G 1008 U形ダクタイル鋳鉄異形管				
JDPA G 1009 フランジ形ダクタイル鋳鉄長管				
JDPA G 1010 UF形遠心力ダクタイル鋳鉄管				
JDPA G 1011 UF形ダクタイル鋳鉄異形管				
JDPA G 1012 KF形遠心力ダクタイル鋳鉄管				
JDPA G 1013 KF形ダクタイル鋳鉄異形管				
JDPA G 1014 U形推進工法用遠心力ダクタイル	鋳鉄管			
JDPA G 1015 UF形推進工法用遠心力ダクタイ	ル鋳鉄管			
JDPA G 1016 T形推進工法用遠心力ダクタイル	鋳鉄管			
JDPA G 1017 TC形推進工法用遠心力ダクタイ	ル鋳鉄管			
JDPA G 1018 K形ダクタイル鋳鉄管用FN形継	<b>手</b>			
JDPA G 1019 S形遠心力ダクタイル鋳鉄管				
JDPA G 1020 S形ダクタイル鋳鉄異形管				
JDPA G 1021 SⅡ形遠心力ダクタイル鋳鉄管				
JCPA G 1022 SⅡ形ダクタイル鋳鉄異形管				
JDPA G 1024 T形遠心力ダクタイル鋳鉄管				
JDPA G 1025 下水道用ダクタイル鋳鉄管				
JDPA G 1026 下水道用ダクタイル鋳鉄管継手				
JDPA G 1027 農業用水用ダクタイル鋳鉄管				
JDPA G 1028 農業用水用ダクタイル鋳鉄管継手				

**備考 1**. ● は制定、◆ は改正、● は廃止を示す。 2. 規格名称は、最新のものを記載した。

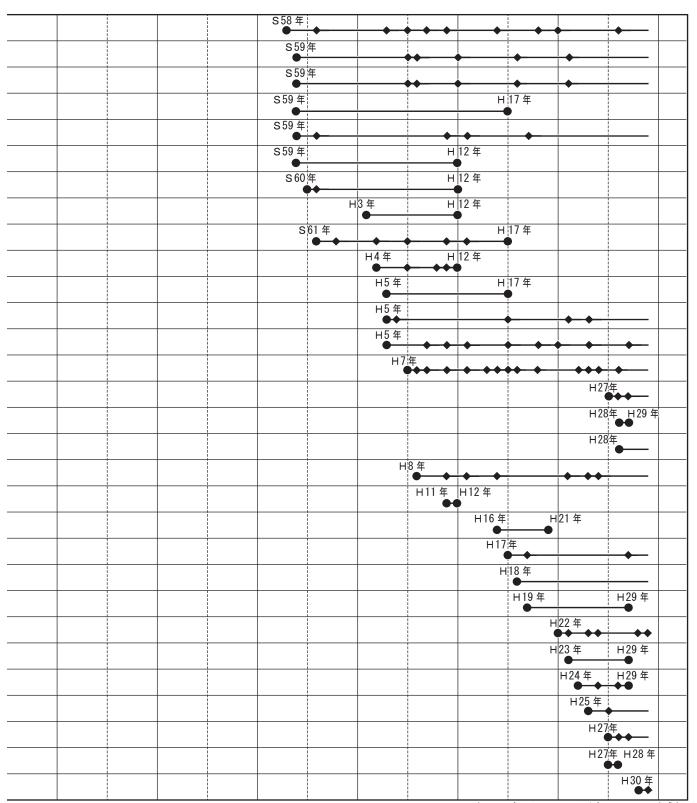
1960年 (S35年)	1970年 (S 45年)	1980 (S55	5年)	1990 年 (H2 年)	2000 年 (H12 年)	2010 年 (H22 年)	2020 :
		:					:
			S 59 年	<b></b>	* * * *	**	•
				H2年			
1960年	1970 年	198		1990年	2000 年	2010 年	2000
(S35年) 年S34年	(S45年)	(85	5年)	(H2年)	(H12年)	(H22 年)	2020
<b></b>							
S 34 年 S 36 年 ● <del> </del> ●							
S 34 年 S 36 年							
534年536年							
-   -	0年 S43 年						
S4	0年 S 43 年						
							1120 年
							H29 年 ●◆
	S 43 年	•••	S 59 年				
	S 43 年	**	S 59 年				
	S45年S48	3 年					
	S45年 S48	3 年					
	S 47 ±	E :	S 59 年				
	S 47 £	<b>*</b> * '	● S 59 年				
	•	<del>+ + +</del>	•				
	S47 5	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	S 59 年				
	S	550年	S 59 年				
	5	50年	S 59 年				
	5	550年	S 59 年				
	5	550年	S 59 年				
		550年	S 58 年				
		•					
		550年	S 58 年				
	5	550年	S 58 年				
	S	550年	S 58 年				
		S 51 年	S 59 年				
		S 54	<u> </u>				
		S 54	年 S 59 年				
		•	<u> </u>				
		S 54	<b>-</b>				
		S 54	年 S 59 年				
		S54	年 S59年				
			S 57 年		H 12 年		
			S57年		H 12 年		
		9	56 年				
			<b>*</b>	11-1-	•	•	<b>***</b>
		S	56年	H元年			

# 鋳鉄管の規格年表(3/3)

年	号	1920 年 (T9 年)	1930年 (S5年)	1940 年 (S15 年)	1950年 (S25年)
(一社)日本ダクタイ	ル鉄管協会規格				
JDPA G 1029 推進工法	去用ダクタイル鋳	鉄管			
JDPA G 1030 ダクタイ	イル鋳鉄管				
JDPA G 1031 ダクター	イル鋳鉄異形管				 
JDPA G 1032 フランミ	ジ形ダクタイル鋳	鉄直管			
JDPA G 1033 PII形分	ダクタイル鋳鉄管	:			
JDPA G 1034 US形	ダクタイル鋳鉄管	:			
JDPA G 1035 下水道抖	<b>能進工法用ダクタ</b>	イル鋳鉄管			 
JDPA G 1036 下水道抖	推進工法用G S 形	ダクタイル鋳鉄管			
JDPA G 1037 呼び径り	50 ダクタイル鋳鈴	<b>跌管</b>			
JDPA G 1038 うず巻a	式ダクタイル鋳鉄	フランジ付きT字管(消火栓用)	1		
JDPA G 1039 ボール:	式ダクタイル鋳鉄	可とう管ユニット			
JDPA G 1040 ダクタ	イル鋳鉄管用ステ	ンレス鋼製ボルト・ナット			i 
JDPA G 1041 ダクタ	イル鋳鉄製貯水槽	(耐震用・緊急用)			
JDPA G 1042 NS形分	ダクタイル鋳鉄管	:			 
JDPA G 1042-2 N S 刑	5ダクタイル鋳鉄	管(E種管)			
JDPA G 1042-2-1 N S	形ダクタイル鋳造	跌管(E種管)			 
JDPA G 1042-3 NS用	<b>ジダクタイル鋳鉄</b>	管(Gタイプ)			
JDPA G 1043 ダクタ	イル鋳鉄製水管橋	i			 
JDPA G 1044 浅層埋記	<b>没形ダクタイル鋳</b>	鉄フランジ付きT字管(空気弁	用・消火栓用)		
JDPA G 1045 農業用力	k用(低圧用) K L	形ダクタイル鋳鉄管			
JDPA G 1046 PN形	ダクタイル鋳鉄管	:			
JDPA G 1047 NS形	方食ゴム付き切管	·用挿しロリング			
JDPA G 1048 US形	ダクタイル鋳鉄管	· (LS方式)			
JDPA G 1049 G X形分	ダクタイル鋳鉄管	:			
JDPA G 1050 US形均	刃管用挿しロリン	ググ			 
JDPA G 1051 PN形	ダクタイル鋳鉄管	(JP方式及びCP方式)			
JDPA G 1052 S 50 形	ダクタイル鋳鉄管	<del>*</del>			
JDPA G 1053 ALW	ドダクタイル鋳鉄	:管			
JDPA G 1053-2 A L W	V形ダクタイル鋳	鉄管			
JDPA G 3002-2 US用	5ダクタイル鋳鉄	管(R方式)			

**備考 1**. ● は制定、◆ は改正、● は廃止を示す。 **2**. 規格名称は、最新のものを記載した。

1960年	1970 年	1980 年	1990 年	2000 年	2010 年	0000 /=
(S35年)	(S45年)	(S55年)	(H2年)	(H12年)	(H22年)	2020 年

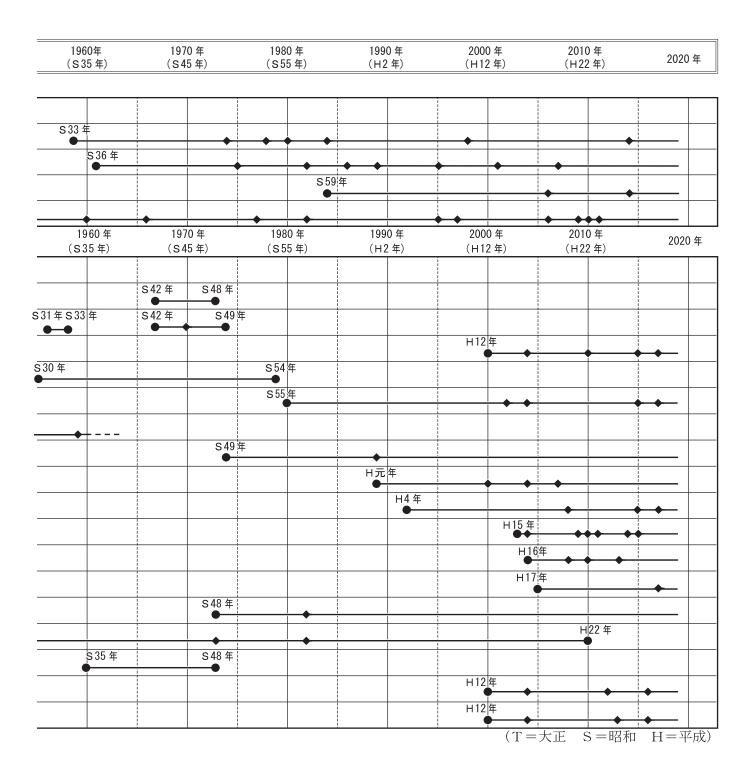


(T=大正 S=昭和 H=平成)

# 塗覆装、表示などの規格年表(1 / 2)

年 号	1920 年 (T9 年)	1930年 (S5年)	1940 年 (S15 年)	1950年 (S25年)
日本工業規格				
臨 JES 第 499 号類別K 水道用ゴムパッキン			S18年 ◆ - ÷	
JIS A 5314 ダクタイル鋳鉄管モルタルライニング				
JIS G 5502 球状黒鉛鋳鉄品				
JIS G 5528 ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ樹脂粉化	本塗装			
JIS ĸ 6353 水道用ゴム				S 28 年
(公社)日本水道協会規格	1920 年 (T9 年)	1930年 (S5年)	1940年 (S15年)	1950 年 (S25 年)
水道用鋳鉄管及び弁鋳出記号標準			S17年	S 26 年
直管表示マーク統一表				
JWWA A 107 水道用遠心力ダクタイル鋳鉄管モルタ	ルライニング			
JWWA A 113 水道用ダクタイル鋳鉄管モルタルライ	ニング			
JWSA G 104 水道用鋳鉄管塗装方法				
JWWA G 112 水道用ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ	樹脂粉体塗装			
JWSA ĸ 102 水道用ゴム			S12年	
JWWA ĸ 115 水道用タールエポキシ樹脂塗料塗装方	法			
JWWA ĸ 135 水道用液状エポキシ樹脂塗料塗装方法				
JWWA к 139 水道用ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗料				
JWWA ĸ 156 水道施設用ゴム材料				
JWWA к 157 水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗料塗装	方法			
JWWA ĸ 158 水道用ダクタイル鋳鉄管用ポリエチレ	ンスリーブ			
JWWA Z 100 水道用品表示記号				
JWSA z 101 水道用鋳鉄管類の表示方法				S 26 年
JWSA Z 107 水道用メカニカルジョイント鋳鉄管記	号配列			
JWWA Z 108 水道用資機材-浸出試験方法				
JWWA Z 110 水道用資機材-浸出液の分析方法				
			: 1	

備考1. ● は制定、◆ は改正、● は廃止を示す。 2. 規格名称は、最新のものを記載した。

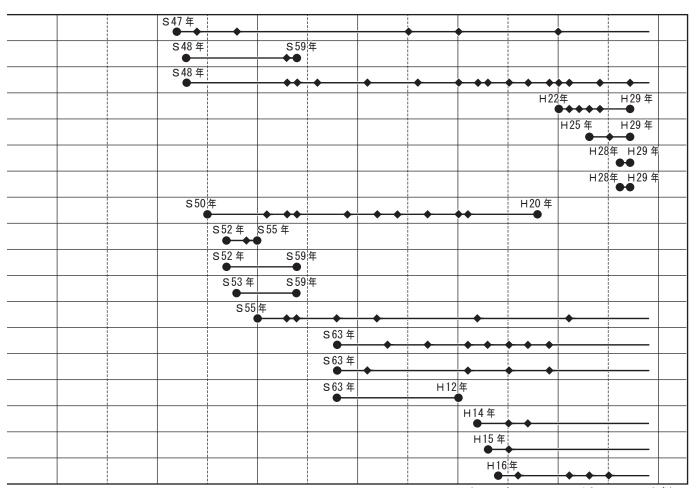


## 塗覆装、表示などの規格年表(2/2)

年	号	1920 年 (T9 年)	1930年 (S5年)	1940 年 (S15 年)	1950 年 (S25 年)
(一社)日本ダクタイル鉄	管協会規格				
JDPA Z 2002 ダクタイル	管継手用滑剤				
JCPA Z 2003 ダクタイル	鋳鉄管類の表示記号				
JDPA Z 2004 ダクタイル	鋳鉄管類の表示				
JDPA Z 2004-2 G X 形ダ	クタイル鋳鉄管の表え	त्र			
JDPA Z 2004-3 S 50 形ダ	クタイル鋳鉄管の表	示			
JDPA Z 2004-4 NS形ダ	クタイル鋳鉄管(E種	管)の表示			
JDPA Z 2004-4-1 NS形分	ダクタイル鋳鉄管(E	種管)の表示			
JDPA Z 2005 ダクタイル	鋳鉄管防食用ポリエ	チレンスリーブ			
JDPA Z 2006 ダクタイル	鋳鉄管内面エポキシ	樹脂粉体塗装			
JDPA Z 2007 ダクタイル	鋳鉄管継手用クロロ	プレンゴム輪			
JDPA Z 2008 ダクタイル	鋳鉄管継手用ニトリク	ルゴム輪			
JDPA Z 2009 ダクタイル	鋳鉄管外面特殊塗装				
JDPA Z 2010 ダクタイル	鋳鉄管合成樹脂塗装				
JDPA Z 2011 ダクタイル	鋳鉄異形管内面液状:	エポキシ樹脂塗装			
JDPA Z 2013 ダクタイル	鋳鉄異形管モルタル	ライニング			
JDPA Z 2015 水道用ダク	タイル鋳鉄管モルタ	ルライニングーシーバ	ノコート		
JDPA Z 2016 ダクタイル	鋳鉄管内面エポキシ	樹脂粉体塗装			
JDPA Z 2017 ダクタイル	鋳鉄管用切管端面防?	食材料			

**備考 1**. ● は制定、◆ は改正、● は廃止を示す。 **2**. 規格名称は、最新のものを記載した。

1960年	1970 年	1980 年	1990 年	2000 年	2010 年	2020 年
(S35年)	(S45年)	(S55年)	(H2年)	(H12年)	(H22年)	2020 +



(T=大正 S=昭和 H=平成)

# 規格の変遷

年 次	規格			関		Ē	事	項		
1874年									より東京の水	
(明治7年)		道創設につ	いいて	の意見	見書が	政府	に提出	出された。		
1876年 (明治9年)		東京水道改	良委	員会?	が設立	され	た。			
1885年 (明治18年)	輸入鋳鉄管 (イギリス製)	横浜市において近代水道建設工事が着手された(イギリス人 シリースペンサー・パーマ氏設計による)。(明治20年10月 17日給水開始、わが国最初の近代水道が完成した。)								
1904年		上水協議会 ((公社)日本水道協会の前身) が設立された								
(明治37年)		(上水水質試験統一のため、12市町村が集まり協議会が設立された								
		わが国最初の水道用鋳鉄管規格(普 〈主な内容〉 呼び径							が制定された。	
		in	区	分	製造方	法	接合	形式		
1914年	(上水協議会規格)	3~47	直着異形物	1	置注鋳	告		ト形、 ジ形		
(大正3年)	「水道用鋳鉄管仕様書標準」					1	L 46	- 46		
	制定		ן ל	di A	、恭重	1	た折		、験片	
		1b/in <sup>2</sup>		中心荷重 1b		たわみ in		X 1 25	in i	
		18,000以	£	1 7 1	0以上	0.	27以_	<sub>+</sub> 2	"×1" (間距離24")	
1921年		日本標準規	格 (	JES)	が発	足した	: (I	業品規格	統一調査会)。	
(大正10年)	3	日本標準規格(JES)が発足した(工業品規格統一調査会)。 度量衡法が改正され公布された。								
		及里因44/	-CX.III	CAL.	7411 6	10/	0			
1924年 (大正13年)	D	大正13年7	100		A 7 N.		7.02	た。		
		大正13年7	月メの度量	一ト演法普通領	ル法か の改立 鋳鉄管	が施行 Eに伴	されたい、 制定さ	メートルされた。	法による水道	
		大正13年7 大正10年6 用鋳鉄管規	7月メ ウ度量 見格(・)規格・	一ト演法普通領	ル法か の改立 鋳鉄管	が施行 Eに伴	されたい、 制定さ	メートルされた。	法による水道	
	(上水協議会規格)	大正13年で 大正10年の 用鋳鉄管規 なお、この	7月メ 7度量	一ト演法普通領	ル法がの改工 鋳鉄管はミリ	が施行 Eに伴	されたい、制定される。	メートルされた。	法による水道	
	(上水協議会規格) 「水道用鋳鉄管規格」制定	大正13年7 大正10年6 用鋳鉄管券 なお、この 〈主な内容	7月メ 戸度量格(利格・) 区 直	ート 衡法 普通領 以降に	ル法かの改正 の改正 鋳鉄管 はミリ	が施行 Eに伴 )がで	された。制ある。	メートルされた。	法による水道	
(大正13年) 1925年		大正13年7 大正10年6 用鋳鉄管規 なお、この 〈主な内容, 呼 び 径 75~1500	7月メウ度量(2)規格(2) 区 直異)	一ト 衡法 強通 強 分 管 形管	ル法かの改正 の改正 鋳鉄管 はミリ	が施行 Eに伴 )管で 方法	された。制ある。	メートルされた。		
(大正13年) 1925年		大正13年7 大正10年6 用鋳鉄管規 なお、この 〈主な内容 呼 び 径 75~1500 抗	7月メーク度量(格格・クタイプ) 展力	一ト 衡法 強通 強 分 管 形管	ル法かの改正の改正の改正の決策を行っています。	が施行 Eに伴 )管で 方法	された。い、定る。	メートルされた。	法による水道 力 □ 試験片	
(大正13年) 1925年		大正13年7 大正10年6 用鋳鉄管規 なお、この 〈主な内容, 呼 び 径 75~1500	7月メ 見格(名) 区 直 異) 別 試	一ト 演法 選 分 管 形管	ル法かの改工の改工の数にはいます。製造を対し、対しています。	が施行とはができた。	された。い、記念。	メートル された。 そ合形式 ット形、 ・ ンジ形 抗 折	<del>ታ</del>	
(大正13年) 1925年		大正13年7 大正10年6 用鋳鉄管規 なお、この 〈主な内容 呼 び 径 75~1500 抗 抗張力	7月メ 量(格格) 区 直 異) 力試 直 25m	ート 衡普以 分 管管 験	ル法かの改革の政策は製置注	が施行 とに伴がで 法 造 中心	されい、 はい、 は 制定さ る。 を 接 ソケララ 荷重	メートルされた。 合形式 ット形、 ンジ形 抗 折 たわみ	カ 試験片 幅×厚さ 50mm×25mm	
(大正13年) 1925年	「水道用鋳鉄管規格」制定	大正13年7 大正10年6 用鋳鉄管規 なお、この 〈主な内容 呼 び 径 75~1500 抗 抗張力 kg/mm²	7月メ 量(格格) 区 直 異) 力試 直 25m	ート 衡・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ル法かの改革の政策は製置注	が施行 Eに伴がで 方 鋳 中 k	されい、 はい、 は 制定さ る。 を 接 ソケララ 荷重	メートルされた。	力 試験片 幅×厚さ 50m×25m (支点間距離	
(大正13年) 1925年		大正13年7 大正10年6 用鋳鉄管規 なお、この 〈主な内容 呼 び 径 75~1500 抗 抗張力 kg/mm²	7月メ量(格) 区 直異 力試 直 25㎡ 平7	ート 衡選以 分 管管 験× ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ル法かの改革 製造	が施行 (上に) 管 方 鋳 中心 k 800.	されい、ことはいい。 接い、ことは、 ない、ことは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	メートル された。 合形式 ット形 抗 折 たわみ mm	力 試験片 幅×厚さ 50m×25m (支点間距離	
(大正13年) 1925年 (大正14年)	「水道用鋳鉄管規格」制定 (日本標準規格) JES 第80号類別G21	大正13年で 大正10年の 用鋳鉄管券 なお、この 〈主な内容 呼び径 75~1500 抗 抗張力 kg/mm² 12.5以上	7月メ量(格規) 区 直異 力試直 25㎡ ひ上水	ート (集通路) 分 管管 験× (	ル法かの改第は 製 置 片さる 30 mm 会規格	が を を を を を を を を を を	された。 はい、 定さる。 接い、 でする。 横 g 以上 CS規札	メートル 合形式 ッンジ 抗 折 たわみ 6.8以上	力 試験片 幅×厚さ 50mm×25mm (支点間距離 600mm)	

備考 は、規格の廃止を示す(以下同じ)。

年 次	規 格		関	連	事	項				
		高級鋳鉄管 格が制定さる 〈主な内容〉		普及する	に至り	、水道用	高級鋳鉄管規			
		呼び径	区分	製造方:	<b>造方法</b> 接合形式					
1933年	(水道協会規格)	75~1500	直 管 異形管	置注鋳:	造 フランジ形					
(明治8年)	「水道用高級鋳鉄管規格」制定	抗克	長力			抗 折	カ			
		抗張力 kg/mm²	試 験 直径×		心荷重 kg	たわみ mm	試験片 直径			
		25以上	20mm× 平行部2	16	00以上	3以上	30mm (支点間距離 300mm)			
	(日本標準規格)									
1934年 (昭和9年)	JES 第272号類別G36 「水道用高級鋳鉄管規格」制定	昭和8年の水	《道協会規	l格がJES	規格と	して制定さ	shta			
	(水道協会規格)	水道用ゴム	規格が制分	言された。						
	「水道用ゴム」制定	〈主な内容〉 ゴムの材質及び硬さが、使用用途別に第一種、第三種、第 三種の3種類に区分された。								
1937年 (昭和12年)	(日本標準規格) JES 第80号類別G21 「水道用鋳鉄管規格」廃止	高級鋳鉄管が全国的に普及するに至り、昭和3年の規格(普 通鋳鉄管)が廃止された。								
	(上水協議会規格) 「水道用鋳鉄管仕様書標準」 廃止	高級鋳鉄管が全国的に普及するに至り、大正3年の標準(普 通鋳鉄管)が廃止された。								
	(水道協会規格)	100 100 100 100 100 100 100 100 100 100					5約する目的で 見格が制定され			
1938年 (昭和13年)	「水道用高級鋳鉄薄手管規格」 制定	呼び径	区为	接合	形式	備	考			
(	III4 XC	75~300	直管	テンケ	ット形	管厚が 薄くな	lmm程度 った			
		臨時日本標準規格(臨JES)が発足した(工業品規格統一調 査会)。								
	(臨時日本標準規格)									
1939年 (昭和14年)	臨JES 第11号類別G 「水道用高級鋳鉄薄手管規格」 制定	昭和13年の	水道協会	規格が臨	JES規	格として	制定された。			
The second secon	(水道協会規格) 「水道用高級鋳鉄薄手管規格」 廃止	昭和13年の	水道協会	規格が臨	JES規	格となり、	廃止された。			

年 次	規格		関	連事	項			
		昭和9年のJI して制定され 〈主な内容〉		一部変更し、	水道協会の臨時規格	\$ E		
	(水道協会規格)		U. ne. s	抗折	カ			
1940年		呼び径	抗張力	中心荷重	たわみ			
昭和15年)	「水道用高級鋳鉄管臨時規格」	1.00	kg/mm <sup>2</sup>	kg	mm			
	制定	75~ 350	20以上		2.5以上			
		400~ 900			3.0以上			
+		1000~1500			3.0以上			
	(臨時日本標準規格)					-		
	臨JES 第328号類別G 「水道用遠心力砂型鋳鉄管 臨時規格」制定	水道協会規格の規格として制力			鉄管臨時規格」が臨J	ES		
		鋳鉄管を砂型 格が制定され 〈主な内容〉		造する技術が	開発されるに至り、	規		
		呼び径	区分	製造方法	接合形式			
	(水道協会規格)	300~900	直管	砂型遠心力象	寿造 ソケット形			
1942年	「水道用砂型遠心力鋳鉄管	抗 .	張力	抗	折 力			
(昭和17年)	臨時規格」制定	抗張力	試験					
60		kg/mm²	直径×長		mm			
		20以上	20mm× 平行部2	13501				
	「水道用鋳鉄管及び弁鋳出 記号標準」制定	水道用鋳鉄管類の表示記号が標準として制定された。 〈主な内容〉 水、製造年、製造所の記号及び テ (低圧の意)、 フ (普 通圧の意)などが規定された。 なお、製造年は、皇紀で鋳出し (アラビア数字4けた)と された。						
	「水道用砂型遠心力鋳鉄管 臨時規格」廃止	本規格が臨JE	ES規格と	なり、廃止さ	れた。			
1943年	(内務省通牒) 「土木工事戦時規格」	1000 000 000 000 000 000 000 000 000 00	管が使用さ	され、低圧の所に	径900 以下は、普通月 は、他の代用管(ヒュー			
昭和18年)	(臨時日本標準規格) 臨JES 第499号類別 K 「水道用ゴムパッキン」制定				格として制定された	0		
1947年 (昭和22年)	112	鋳鉄管倶楽部	を設立し	た。				
1948年 (昭和23年)		鋳鉄管倶楽部	を鋳鉄管	協会に改名し	た。			

年 次	規 格			関 連	事 :	項		
1949年 (昭和24年)	(日本標準規格)  JES 第272号類別G36  「水道用高級鋳鉄管規格」改正 (水道協会規格)  「水道用高級鋳鉄管規格」改正	昭和9年のJES規格が整理され、改正された。 〈主な内容〉 呼び径 … 125が削除された。 管 厚 … 呼び径1000~1500の管厚が改正され、 1.5~3.0㎜程度厚くなった。 異形管 … 管種が整理され少なくなった。 片フランジ管は、JES規格のみに規定された 昭和24年7月工業標準化法が施行され、日本工業規格(Jが発足した(日本工業標準調査会)。 鋳鉄管を金型遠心力鋳造する技術が開発されるに至り、						
		格が制定されく主な内容〉		刀掰迫 9	の 4文4位 20, [近]	完されるに至り、規		
	(水道協会規格)	呼び径	区分	製	造方法	接合形式		
1950年	「水道用遠心力金型鋳鉄管」	100~300	直管	金型道	虚心力鋳造	ソケット形		
(昭和25年)	制定	圧 ‡						
		換算引張強さ kg/mm²	試	験片	碩	Į *		
		20以上	10000	さ25㎜ (試験片)	210HB以下、95HRB以下 30HS以下			
1951年 (昭和26年)	(水道協会規格)  JWSA Z 101  「鋳鉄管記号配列」制定  「水道用鋳鉄管及び弁鋳出 記号標準」廃止	格として制 (主な内容) 水、口径、が 圧の意)、フ なお、製造 2桁)とされ	定された 角度、 (普通 年は、 」 れた。	と。 製造年、動 圧の意) 西暦で鋳り	製造者記号、 などが規定 出し(アラ	ピア数字4桁又は下		
1952年 (昭和27年)	(臨時日本標準規格) 臨JES 第328号類別 G 「水道用遠心力砂型鋳鉄管 臨時規格」改正 (水道協会規格) 「水道用遠心力砂型鋳鉄管規格」	昭和17年の標準がJWSA規格となり、廃止された。 昭和17年の臨JES規格及び水道協会規格が整理され、改された。 〈主な内容〉 呼 び 径 … 75~250が追加された。 圧壊試験 … 換算引張強さ20kg/m²以上。 試 験 片 … 長さは、管の平均直径の1/2とし、呼び径400以上は、200 mとされた。						
1953年 (昭和28年)	改正 (日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴムパッキン」制定	昭和18年の	臨JES	見格がJIS	6規格として	制定された。		

年 次	規格		関	連引	1 0	頁			
	(日本工業規格)  JIS G 5521  「水道用立型鋳鉄管」 制定	昭和24年7月工業標準化法の施行に伴い、鋳鉄管の規格か JIS規格として制定された(昭和24年より水道協会におい て順次審議されていたものが製造方法別に区分され、JIS 規格として制定された)。 〈主な内容〉 JIS G 5521・5524							
	JIS G 5522 「水道用遠心力砂型鋳鉄管」	呼び径	引張強さ kg/mm <sup>2</sup>	製造方法	接合形式				
	制定	75~ 350	20以上	置注	ソケ	ット形			
1954年		400~ 900	23以上	鋳造	フラ	ンジ形			
	JIS G 5523	1000~1500	25以上						
	「水道用遠心力金型鋳鉄管」 制定	JIS G 5522 •	5523						
		規格	呼び径	圧壊強 kg/m	200	製造方法	接合形式		
	JIS G 5524 「水道用鋳鉄異形管」制定	JIS G 5522 JIS G 5523		20以_	-	遠心力 鋳造	ソケット形		
	(臨時日本標準規格) 臨JES 第11号類別G 「水道用高級鋳鉄薄手管規格」 廃止	昭和14年の規格が工業標準化法の施行に伴い、廃止された。							
	(日本標準規格) JES 第272号類別G36 「水道用高級鋳鉄管規格」廃止	昭和24年の規格が工業標準化法の施行に伴い、廃止された。							
	(臨時日本標準規格) 臨JES 第328号類別G 「水道用遠心力砂型鋳鉄管 臨時規格」廃止	昭和27年の規格が工業標準化法の施行に伴い、廃止された。							
	(水道協会規格) 「水道用高級鋳鉄管規格」廃止	昭和24年の規格が廃止された。							
	「水道用遠心力金型鋳鉄管」 廃止	昭和25年の規格	各が廃止され	ht:					
1955年 (昭和30年)	(水道協会規格)  JWSA G 104  「水道用鋳鉄管塗装方法」制定	水道用鋳鉄管の 〈主な内容〉 塗料は、精製タ に乾性油又はポ 水道協会におい	ァールでべ: イル油など	ンゾール を2%以	不溶外	分が15 合した。	ものとされた。		
1956年	(日本水道協会規格) JWSA A 107	モルタルライニ 格が制定された 〈主な内容〉 呼び径 … 75~	ニングが遠っ		-				

年 次	規格			関 連	事 項			
	(鋳鉄管協会標準仕様書)	メカニカルジョイント形鋳鉄管が普及するに至り、仕様書 を制定した。 〈主な内容〉						
1957年	「水道用メカニカルジョイント 刑鋳独古等 鋳建界形等及び	呼び径	区分	製造方法 及び品質	接合形式			
(昭和32年)	型鋳鉄直管、鋳鉄異形管及び		直管	昭和29年の	メカニカルジョイント形			
	付属品」制定	75~900	異形管	JIS G 5521 ~5524と同じ	メカニカルジョイント形 フランジ形			
		水道法が	公布され	た。				
1958年 (昭和33年)	(日本工業規格)  JIS A 5314  「水道用鋳鉄管モルタルライニング方法」制定  (日本水道協会規格)  JWSA A 107  「水道用鋳鉄管モルタルライ				らとして制定された。 、廃止された。			
1959年 (昭和34年)	<ul> <li>ニング方法」廃止</li> <li>(日本水道協会規格)</li> <li>JWSA G 102</li> <li>「水道用メカニカルジョイント型鋳鉄直管」制定</li> <li>JWSA G 103</li> <li>「水道用メカニカルジョイント型鋳鉄異形管」制定</li> </ul>	された。						
	JWSA K 102 「水道用ゴム」改正	昭和12年の水道協会規格が改正された。 〈主な内容〉 継手の種類が増加したため、名称が号及び甲乙など9種類 に小分類された。						

規 格			関 連	事工	頁
(鋳鉄管協会仕様書)		and the second	が普及する。	三至り、仕	様書を制定した。
「メカニカル型	呼び径	区分	製造	方法	接合形式
水道用遠心力砂型ダクタイル 鋳鉄直管」制定		直 管			メカニカル ジョイント形
「メカニカル型	500~1500	The Contract of	置注鋳法	生	メカニカル ジョイント形、 フランジ形
水道用立型ダクタイル鋳鉄 直管」制定	区	分	引張強さ kg/mm²	伸 が %	接合形式
「メカニカル型 水道用ダクタイル鋳鉄異形管」	直管	遠心力	36以上	3以上	供試管より長さ300mm
		立型			20mm厚の押湯部 より採取 Yブロックより
即是	異 形	É	40以上	10以上	採取
(鋳鉄管協会標準仕様書) 「水道用メカニカルジョイント 型鋳鉄直管、鋳鉄異形管 及び付属品」廃止	昭和32年の	本標準化	こなり、廃止した。		
(日本工業規格)	〈主な内容〉				及び甲乙など10種類
JIS K 6353 「水道用ゴム」改正	また、「水道	道用ゴム	パッキン」	から「水	道用ゴム」に名称が
(日本水道協会規格)	〈主な内容〉			CONTRACTOR	
JWSA Z 107 「水道用メカニカルジョイント 鋳鉄管記号配列」制定	造年、刻印 などが規定	座、水された。	及び テ (	低圧の意	)、フ(普通圧の意)
	(鋳鉄管協会仕様書) 「メカニカル型 水道用遠心力砂型ダクタイル 鋳鉄直管」制定 「メカニカル型 水道用立型ダクタイル鋳鉄 直管」制定 「メカニカル型 水道用ダクタイル鋳鉄異形管」制定 (鋳鉄管協会標準仕様書) 「水道用メカニカルジョイント 型鋳鉄直管、鋳鉄異形管 及び付属品」廃止 (日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴム」改正 (日本水道協会規格) JWSA Z 107 「水道用メカニカルジョイント	(募鉄管協会仕様書)  「メカニカル型 水道用遠心力砂型ダクタイル  募鉄直管」制定  「メカニカル型 水道用立型ダクタイル鋳鉄 直管」制定  「メカニカル型 水道用ダクタイル鋳鉄異形管」 制定  「メカニカル型 水道用ダクタイル鋳鉄異形管」 制定  「メカニカル型 水道用ダクタイル鋳鉄異形管」 関和32年の  昭和32年の  (日本工業規格)  「日本工業規格)  「日本工業規格・ 「日本工業・ 「本工業・ 「日本工業・ 「本工業・ 「本	(募鉄管協会仕様書)  「メカニカル型 水道用遠心力砂型ダクタイル  鋳鉄直管」制定  「メカニカル型 水道用立型ダクタイル鋳鉄 直管」制定  区  「メカニカル型 水道用ダクタイル鋳鉄異形管」 制定  異 形  で  (募鉄管協会標準仕様書) 「水道用メカニカルジョイント 型鋳鉄直管、鋳鉄異形管 及び付属品」廃止  昭和32年の本標準化 (日本工業規格) はまれた。 はまれた。 また、「水道用ゴム」改正  (日本水道協会規格)  「水道用メカニカルジョイント などが規定された。  「本道内容) 「本道用メカニカルジョイント	(募鉄管協会仕様書)  「メカニカル型 水道用遠心力砂型ダクタイル  募鉄直管」制定  「メカニカル型 水道用立型ダクタイル鋳鉄 直管」制定  区分 製造 立型置だ を	(

年 次	規格				り 連		項		
	(日本工業規格)  JIS G 5502  「球状黒鉛鋳鉄品」制定	〈主な内容	(2				定された。 CD 70の4	種類が規定	
	(日本水道協会規格)	昭和34年の鋳鉄管協会仕様書がJWSA規格として制定された。 〈主な内容〉							
	JWSA G 105	呼び	径	区分	製力	造方法	接合形式		
	「水道用遠心力ダクタイル			直管	遠心	力鋳造	A形、B#	3、C形	
	鋳鉄管」制定	200~15	000	異形管	置注	鋳造	A形、B用 フランジ用		
1961年	JWSA G 106 「水道用ダクタイル鋳鉄 異形管」制定	区分	25	長強さ g/mm²	伸 び %	硬 さ HB	へん平 試験	試験片	
(昭和36年)		直管	38	3以上	3以上	230以下	規定あり	供試管より 長さ300mm	
	異形管」制定	異形管	-	)以上 5以上	12以上 5以上	230以下	_	Yプロック より採取	
	(鋳鉄管協会仕様書) 「メカニカル型 水道用遠心力砂型ダクタイル 鋳鉄直管」廃止 「メカニカル型 水道用立型ダクタイル鋳鉄 直管」廃止 「メカニカル型 水道用がクタイル鋳鉄	昭和34年の本仕様書がJWSA規格になり、廃止した。							
1962年 (昭和37年)	(日本水道協会(選定)) 「水道用鋳鉄異形管 実用管種表」(厚生省監修)	ようにと 鋳鉄異形 ト形鋳鉄	の評価を	s間があ 、JWS が管」、、	り、現 A G JWSA	行規格(, 103「水道 G 106	JIS G 55 <sup>1</sup>	検討整理する 524「水道用 カルジョイン フタイル鋳鉄 1管種として	
1964年		選定された。 日本水道協会の英文略称が4月1日付で「JWSA」から 「JWWA」に改正された。 (社)日本下水道協会が設立された。							

年 次	規格			関 連	事 項			
1965年 (昭和40年)	(日本水道協会規格)  JWWA G 105  「水道用遠心力ダクタイル 鋳鉄管」改正  JWWA G 106  「水道用ダクタイル鋳鉄 異形管」改正  (日本鋳鉄管協会規格)  「K形遠心力ダクタイル	された。	が普及す	規格に呼び径 るに至り、規格				
	鋳鉄管」制定	呼び径	区分	機械的性質	製造方法	接合形式		
		1000	直管	01111 0 105	遠心力鋳造	K形		
	「K形ダクタイル鋳鉄異形管」 制定	1000 ~2200	異形管	JWWA G 105 •106と同じ	置注鋳造	K形、 フランジ形		
		鋳鉄管協とした。	会を日本銀	寿鉄管協会と改	名し、英文略	称を「JCPA」		
1966年 (昭和41年)	(日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴム」改正	昭和35年の規格にゴムの溶解試験を追加し、改正された。						
1967年 (昭和42年)	(日本水道協会規格)  JWWA A 107  「水道用遠心力ダクタイル  鋳鉄管モルタルライニング」 制定  JWWA G 105  「水道用遠心力ダクタイル  鋳鉄管」改正  JWWA G 106  「水道用ダクタイル鋳鉄  異形管」改正  (日本鋳鉄管協会(標準))	昭和33年のJIS規格に呼び径1000~1500を追加して、新力にJWWA規格として制定された。  昭和41年7月 工業標準化法が改正(ISO規格メートルねじされ、昭和40年のJWWA規格が改正された。 〈主な内容〉 試験水圧の改正及びボルト・ナットのねじ形式がウィッねじからメートル並目ねじに変更された。						
	「直管表示マーク統一表」制定	20 C C C C C C C C C C C C C C C C C C C		35年のJWSA , 直管表示マー				
1968年 (昭和43年)	(日本鋳鉄管協会規格)  JCPA G 1001  「K形遠心力ダクタイル  鋳鉄管」制定  JCPA G 1002  「K形ダクタイル鋳鉄異形管」 制定	昭和41年7月 工業標準化法の改正により、 本鋳鉄管協会規格のボルト・ナットにISO規模 じを適用して、新たに制定した。 〈主な内容〉 呼び径… 75~2400 試験水圧… JWWA G 105・106に整合させた						
	「K形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止 「K形ダクタイル鋳鉄異形管」 廃止	昭和41年7月 工業標準化法の改正により、昭和40年の規格を廃止した。						

年 次	規格			関 連	事 項				
	(日本水道協会規格)	製造方法及び接合形式などの技術革新が進み、実情にそぐわなくなったため、JIS G 5521~5524及びJWSA G102・103が整理結合され、新たにJWWA規格が制定された。 〈主な内容〉							
	JWWA G 108	呼び径	区分	製造方法	接合	形式			
	「水道用遠心鋳鉄管」制定	75~250	直 管	遠心力鋳	送 ジョイン				
		75~500	異形管	置注鋳造	メカニュ ジョイン フランシ	ト形、			
1969年		-		圧 堰	複試験	引張引	命さ		
(昭和44年)	JWWA G 109 「水道用鋳鉄異形管」制定	呼び径	区分	圧壊強さ kg/mm²	試験片	引張強さ kg/mm²	供試材		
		75~250	直管	20以上	平均直径の 1/2の長さ		_		
		75~350 400~500	1年126		3=3"	22以上 25以上	直径20 直径30		
	IMCA C 100		K		2444				
	JWSA G 102 「水道用メカニカルジョイント 形鋳鉄直管」廃止 JWSA G 103 「水道用メカニカルジョイント形 鋳鉄異形管」廃止	昭和34年のれた。	の規格が、	実情にそ	ぐわなくな・	ったため、	廃止さ		
	「水道用メカニカルジョイント 形鋳鉄直管」廃止 JWSA G 103	れた。 昭和42年の 〈主な内容〉 混和材が新	の規格がで たに規定 イニング	文正された。 ごされた。 デの製造方					
	「水道用メカニカルジョイント 形鋳鉄直管」廃止 JWSA G 103 「水道用メカニカルジョイント形 鋳鉄異形管」廃止 (日本水道協会規格) JWWA A 107 「水道用遠心力ダクタイル鋳鉄	和た。 昭和42年の 〈主な内容〉 混和材が新 モルタルラ の瀝青質系	り 規格が たに 規 が に 規 が が 削除 さ 、 が 半 が が に 継 手 が が に を に が に に が に に が に に に に に に に に に に に に に	女正された。 ごされた。 ずの製造方 られた。	o .	ı, シール	コート		
1970年	「水道用メカニカルジョイント 形鋳鉄直管」廃止 JWSA G 103 「水道用メカニカルジョイント形 鋳鉄異形管」廃止 (日本水道協会規格) JWWA A 107 「水道用遠心力ダクタイル鋳鉄 管モルタルライニング」改正 (日本鋳鉄管協会規格) JCPA G 1003	和た。 昭和42年の 〈主な内容〉 混和材が新 モルタルラ の瀝青質系 タイトン形	カ規格が記 たに規定 イニン が削除さ 継手が音	女正された。 ごされた。 での製造方 いれた。 き及するに 製造方	法が改正され至り、規格を去と接	れ、シール 規定した。	コート		
1970年 (昭和45年)	「水道用メカニカルジョイント 形鋳鉄直管」廃止 JWSA G 103 「水道用メカニカルジョイント形 鋳鉄異形管」廃止 (日本水道協会規格) JWWA A 107 「水道用遠心力ダクタイル鋳鉄管モルタルライニング」改正 (日本鋳鉄管協会規格) JCPA G 1003 「タイトン形水道用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」	和た。 昭和42年の 〈主な内容〉 混和材が新 モルタルラ の瀝青質系 タイトン形 〈主な内容〉	カ規格が記 たに規定 イニンが削除さ が削除する 直 管	女正された。 ごされた。 での製造方 いれた。 き及するに 製造方	法が改正され 至り、規格を 去 接 造 タイト:	れ、シール 規定した。	コート		
	「水道用メカニカルジョイント 形鋳鉄直管」廃止 JWSA G 103 「水道用メカニカルジョイント形 鋳鉄異形管」廃止 (日本水道協会規格) JWWA A 107 「水道用遠心力ダクタイル鋳鉄 管モルタルライニング」改正 (日本鋳鉄管協会規格) JCPA G 1003 「タイトン形水道用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」 制定	和た。 昭和42年の 〈主な内容〉 混和材が新 モルタルラ の瀝青質系 タイトン形 〈主な内容〉 呼び径	カ規格が記 たに規定 イニンが削除さ が削除する 直 管	文正された。 された。 での製造方 された。 き及するに 製造方 遠心力鋳造 置注鋳造	法が改正され 至り、規格を 去 接 造 タイト:	れ、シール 規定した。 合 形 シ形	コート		
	「水道用メカニカルジョイント 形鋳鉄直管」廃止 JWSA G 103 「水道用メカニカルジョイント形 鋳鉄異形管」廃止 (日本水道協会規格) JWWA A 107 「水道用遠心力ダクタイル鋳鉄 管モルタルライニング」改正 (日本鋳鉄管協会規格) JCPA G 1003 「タイトン形水道用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」 制定 JCPA G 1004	和た。 昭和42年の 〈主な内容〉 混和材が新 モルタルラ の瀝青質系 タイトン形 〈主な内容〉 呼び径 75~250	カ規格が記れたに規定 が出いた。 が半 を を が半 を を を を を を を を を を を を を	文正された。 された。 での製造方 された。 等及するに 遠心力鋳造 置注鋳造 な 伸 び	法が改正され 至り、規格を 去 接 造 タイト: i タイト:	1、シール 規定した。 合形 ン形、フラ 、験 片	コート式ンジ形		
	「水道用メカニカルジョイント 形鋳鉄直管」廃止 JWSA G 103 「水道用メカニカルジョイント形 鋳鉄異形管」廃止 (日本水道協会規格) JWWA A 107 「水道用遠心力ダクタイル鋳鉄 管モルタルライニング」改正 (日本鋳鉄管協会規格) JCPA G 1003 「タイトン形水道用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」 制定	和た。 昭和42年の 〈主な内容〉 混和材が新 モルタルラ の瀝青質系 タイトン形 〈主な内容〉 呼び径 75~250 区 分	が 対 大に規分 イニンが が 部 が を を を を を を を を を を を を を	女正された。 された。 での製造方 された。 き及するに 製造方 遠心力鋳造 置注鋳造 (4) 0 % 3以上 12以上	法が改正され 至り、規格を 去 タイト: タイト: 以 タイト:	1、シール 規定した。 合形 ン形、フラ 、験 片	式ンジ形		

年 次	規 格		関	連事	項			
	(日本工業規格)  JIS G 5502  「球状黒鉛鋳鉄品」改正	〈主な内容			60が増加された。			
1971年 (昭和46年)	(日本水道協会規格)  JWWA G 105  「水道用遠心力ダクタイル	The second secon						
	鋳鉄管」改正	呼び径	接合形式		考			
	JWWA G 106	75~ 500	A形	呼び径600~15	00は削除された。			
	「水道用ダクタイル鋳鉄 異形管」改正	400~1500	K形		<del></del>			
	JCPA G 1001 「K形遠心力ダクタイル 鋳鉄管   改正	正した。			規格に整合させ、改			
	JCPA G 1002	<u>IZ</u> 37	71元独さKg 40以上	15以上				
	「K形ダクタイル鋳鉄	異形管	45以上	4.1.3.55				
	異形管」改正		408477	1024.1.				
1972年	JCPA G 1007 「U形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」制定 JCPA G 1008 「U形ダクタイル鋳鉄	を制定した 〈主な内容	- a		及するに至り、規格			
(昭和47年)	異形管」制定	呼び往…	700~2400					
	JCPA G 1009	フランジ! 定した。 〈主な内容		鋳造で製造され	るに至り、規格を制			
	「フランジ形ダクタイル	呼び径	機械的性	質 製造方法	接合形式			
	鋳鉄長管」制定	75~1000	JCPA G 1 と同じ	002 立型鋳造	フランジ形			
	JCPA Z 2002 「タイルーブ仕様書」制定	〈主な内容	>	滑剤の規格を制 脂のカリ石けん。				

年 次	規 格	関 連 事 項					
	(日本水道協会規格)	昭和45年のJCPA規格がJWWA規格として制定された。 〈主な内容〉					
	JWWA G 110	呼び径	区分	製造方	法 接合形式		
	「水道用T形遠心力ダクタイル	75 050	直管	遠心力錄	寿造 T形		
	鋳鉄管」制定	75~250	異形管	置注鋳造	生 T形、フランジ形		
	JWWA G 111	区分	引張強さ kg/m²	伸 び %	試 験 片		
	「水道用T形ダクタイル	直管	40以上	5以上	供試管より長さ100mm以上		
		異形管	40以上	15以上	Yブロックより採取		
	MAXX/DEJ MIX	共形目	45以上	10以上	(JIS G 5502のA号)		
	JWWA Z 100 「水道用品鋳出し記号」制定	管及び弁類など全ての表示記号の大きさを統一し、JWWA 規格として制定された。					
1973年 (昭和48年)	JWWA Z 101 「水道用鋳鉄管類の表示方法」 改正	JWWA Z 100制定に伴い、昭和26年及び昭和35年のJWSA 規格を整理し、改正された。					
	JWSA Z 107 「水道用メカニカルジョイント 鋳鉄管記号配列」廃止	JWWA Z 101改正に伴い、昭和35年の規格が廃止された。					
	(日本鋳鉄管協会規格)  JCPA Z 2003 「表示記号」制定 JCPA Z 2004 「鋳鉄管類の表示方法」制定	JWWA Z 100・101に規定されていない呼び径1600以上 について、JCPA規格として制定された。					
	JCPA G 1003 「タイトン形水道用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」廃止 JCPA G 1004 「タイトン形水道用ダクタイル 鋳鉄異形管」廃止	JWWA G 110・111制定に伴い、昭和45年規格を廃止した。					
	(日本鋳鉄管協会 (標準)) 「直管表示マーク統一表」廃止	JCPA Z 2003・2004制定に伴い、昭和42年の日本鋳鉄管協会(標準)を廃止した。					

年 次	規格		英	連	事 項		
	(日本工業規格)  JIS A 5314  「水道用遠心力球状黒鉛鋳鉄管 モルタルライニング」改正	昭和45年のJWWA規格に整合させて、昭和33年の規格が 改正された。					
		昭和46年のJWWA規格がJIS規格として制定された。 〈主な内容〉					
	JIS G 5526	呼び径	区分	製造方	法 接合形式		
	「水道用遠心力球状黒鉛 鋳鉄管」制定	75~ 500 400~1500	自 官	遠心力鈔	存造 A形 K形		
		75~ 500	(1A	Top be a second	Δ形 フランジ形		
		400~1500	- 異形骨	置注鋳造	K形、フランジ形		
	JIS G 5527 「水道用球状黑鉛鋳鉄異形管」 制定	区分	月張強さ kg/mm²	伸 び %	試 験 片		
		直管	40以上	5以上	供試管より長さ100mm以上		
		異形管	40以上	15以上	Yブロックより採取		
1974年		开心目	45以上	10以上	(JIS G 5502のA号)		
(昭和49年)	(日本水道協会規格)  JWWA K 115  「水道用タールエポキシ  樹脂塗料塗装方法」制定	水道用に使用する管類、弁類及び水槽の内面に塗装する塗料並びに塗装方法がJWWA規格として制定された。 〈主な内容〉 呼び径400~1500の内面に適用された。					
	JWWA A 107 「水道用遠心力ダクタイル 鋳鉄管モルタルライニング」 廃止	昭和45年のJWWA規格に整合させて、JIS A 5314が改正されたため、廃止された。					
	JWWA G 105 「水道用遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止 JWWA G 106 「水道用ダクタイル鋳鉄 異形管」廃止	昭和46年の本規格がJIS規格となり、廃止された。					
	(日本鋳鉄管協会規格)  JCPA Z 2002  「T形管用滑剤仕様書」改正	タイトン形継手が昭和48年にJWWA規格として制定されたのに伴い、昭和47年の規格を改正した。 〈主な内容〉 主成分を植物性高分子の水溶液に改正した。 また、規格名称も変更した。					

年 次	規格	関 連 事 項				
	(日本工業規格)					
	JIS G 5502 「球状黒鉛鋳鉄品」改正	昭和46年の規格がISO規格に整合させ、改正された。				
	(日本鋳鉄管協会規格)  JCPA G 1001  「K形遠心力ダクタイル  鋳鉄管」改正  JCPA G 1002  「K形ダクタイル鋳鉄  異形管」改正  JCPA G 1007  「U形遠心力ダクタイル  鋳鉄管」改正  JCPA G 1008  「U形ダクタイル鋳鉄	昭和47年の規格を改正した。 〈主な内容〉 呼び径… K形、U形とも2600を追加した。 機械的性質… JIS G 5526・5527と同じ。				
	異形管」改正					
	JCPA G 1010 「UF形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」制定	離脱防止形としてUF形・KF形継手が普及するに至り、				
1975年 昭和50年)	JCPA G 1011 「UF形ダクタイル鋳鉄	規格を制定した。 〈主な内容〉				
	異形管」制定 JCPA G 1012	呼び径 接合形式 機械的性質				
	「KF形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」制定	700~2400 UF形 JIS G 5526・5527と同じ				
	JCPA G 1013 「KF形ダクタイル鋳鉄 異形管」制定	300~ 900 KF形   500 C 5525 C 5527 C 5525 C 5527 C 5525 C 5527 C 5525 C 5				
	JCPA G 1014 「U形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」制定 JCPA G 1015	推進工法用としてダクタイル鋳鉄管が普及するに至り、規格を制定した。				
	「UF形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」制定	〈主な内容〉				
	JCPA G 1016	呼 び 径 接合形式				
	「T形推進工法用遠心力	700~2600 U形、UF形				
	ダクタイル鋳鉄管」制定	300~ 600 T形				
	JCPA G 1017 「TC形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」制定	600~ 900 TC形				
	JCPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管防食用 ポリエチレンスリーブ」 制定	管外面の防食法としてポリエチレンスリープ工法が普及るに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉 呼び径 … 75~2600				

年 次	規 格	関 連 事 項			
1975年 (昭和50年)	(日本鋳鉄管協会規格)  JCPA G 1010  「UF形遠心力ダクタイル  鋳鉄管」改正  JCPA G 1011  「UF形ダクタイル鋳鉄  異形管」改正	当年の規格に呼び径2600を追加し改正した。			
(日本鋳鉄 JCPA G 「K形遠心 鋳鉄管」 JCPA G 「K形ダク	(日本鋳鉄管協会規格)  JCPA G 1001  「K形遠心力ダクタイル  鋳鉄管」改正  JCPA G 1002  「K形ダクタイル鋳鉄  異形管」改正	昭和50年の規格を改正した。 〈主な内容〉 酸化被膜処理したボルト・ナットに改正した。			
1976年	JCPA G 1009 「フランジ形ダクタイル 鋳鉄長管」改正	昭和47年の規格を改正した。 〈主な内容〉 呼び径1100~1500を追加した。 昭和50年の規格を改正した。 〈主な内容〉 酸化被膜処理したボルト・ナットに改正した。			
(昭和51年)	JCPA G 1012 「KF形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」改正 JCPA G 1013 「KF形ダクタイル鋳鉄 異形管」改正				
	JCPA G 1018 「K形ダクタイル鋳鉄管用 FN形継手」制定	K形挿し口にリングを溶接した離脱防止形の継手が普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉 呼び径 … 300~900			

年 次	規格	関 連 事 項			
	(日本工業規格)  JIS G 5526  「水道用遠心力球状黒鉛  鋳鉄管」改正  JIS G 5527  「水道用球状黒鉛鋳鉄異形管」  改正	国際単位系 (S I) 導入に伴い、昭和49年のJIS規格が改正された。			
	JIS K 6353 「水道用ゴム」改正	国際単位系 (SI) 導入に伴い、昭和41年のJIS規格が改正された。			
1977年 (昭和52年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA Z 2006  「水道用ダクタイル鋳鉄  異形管粉体塗装」制定	異形管内面の防食法として粉体塗装の塗料及び塗装方法が開発され、規格を制定した。			
	JDPA Z 2007 「ダクタイル鋳鉄管継手用 クロロプレンゴム輪」制定	下水道又は耐熱用にクロロプレンゴム輪 (CR) が使用されるに至り、規格を制定した。			
		水道用ゴム輪の材質をスチレンブタジエンゴム (SBR) に 限定した。			
		日本鋳鉄管協会を日本ダクタイル鉄管協会に改名し、英文 略称を「JDPA」に改正した。			
1978年 (昭和53年)	(日本工業規格)  JIS A 5314  「水道用遠心力球状黒鉛鋳鉄管 モルタルライニング」改正	昭和49年の規格に国際単位系(SI)を導入し、改正された。			
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA Z 2002 「ダクタイル管継手用滑剤」 改正	昭和49年のJCPA規格を改正した。 〈主な内容〉 これまでT形継手専用であったものを全ての継手に適用するよう改正した。 また、規格名称も変更した。			
	JDPA Z 2008 「ダクタイル鋳鉄管継手用 ニトリルゴム輪」制定	下水道又は耐熱用にアクリロニトリルブタジエン系合成ゴム輪(NBR)が使用されるに至り、規格を制定した。			

年 次	規格	関 連 事 項
	(水道協会規格) JWSA G 104 「水道用鋳鉄管塗装方法」廃止	昭和30年の規格が廃止された。
1979年 昭和54年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1001 「K形遠心力ダクタイル  鋳鉄管」改正 JDPA G 1002 「K形ダクタイル鋳鉄 異形管」改正 JDPA G 1007 「U形遠心力ダクタイル  鋳鉄管」改正 JDPA G 1008 「U形ダクタイル  鋳鉄管」改正 JDPA G 1009 「フランジ形ダクタイル  鋳鉄長管」改正 JDPA G 1010 「UF形遠心力ダクタイル  鋳鉄管」改正 JDPA G 1011 「UF形ダクタイル  大野でクタイル  大野でクタイル  大野でラウィル  大野でカックイル  大野でカックストル  大野・一会に  大学・一会に  大学	昭和52年のJIS規格に国際単位系(SI)が導入されたのに伴い、整合させて改正した。
	JDPA G 1014 「U形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」改正 JDPA G 1015 「UF形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」改正 JDPA G 1016 「T形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」改正 JDPA G 1017 「TC形推進工法用遠心力	昭和50年のJCPA規格に外装などの仕様を追加し、改正した。

年 次	規 格	関 連 事 項				
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)					
	JDPA G 1018 「K形ダクタイル鋳鉄管用 FN形継手」改正	昭和52年のJIS規格に整合させて改正された。				
	JDPA G 1019 「S形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」制定 JDPA G 1020 「S形ダクタイル鋳鉄 異形管」制定	耐震用及び耐軟弱地盤用として伸縮・離脱防止形の継手が 普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉				
1979年 (昭和54年)	JDPA G 1021	呼 び 径 接合形式				
(昭和54平)	「SⅡ形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」制定	100~ 450 SI形 500~2600 S形				
	JDPA G 1022 「SⅡ形ダクタイル鋳鉄 異形管」制定 JDPA G 1024 「T形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」制定	昭和48年のJWWA G 110に規定されていない呼び径300~2000の規格を制定した。				
	JDPA Z 2006 「ダクタイル鋳鉄管内面 エポキシ樹脂粉体塗装」改正	昭和52年の規格の適用範囲に直管を追加し、改正した。 また、規格名称も変更した。				
1980年 (昭和55年)	JIS A 5314 「水道用遠心力球状黒鉛鋳鉄管 モルタルライニング」改正	昭和53年のJIS規格が実情に合わせて改正された。				
	(日本水道協会規格)  JWWA G 112  「水道用ダクタイル鋳鉄管 内面エポキシ樹脂粉体塗装」 制定	昭和54年のJDPA規格がJWWA規格として制定された。				
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1014  「U形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」改正	昭和54年の規格を改正した。				
	JDPA G 1015 「UF形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」改正 JDPA G 1016 「T形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」改正	外装施行年月日の表示を管内面のラベル表示から外装表面 へのペイント表示に変更した。				
	JDPA Z 2019 「ダクタイル鋳鉄管用 外面特殊塗装」制定	露出又は水中配管などに使用される鋳鉄管の外面塗装の規格を制定した。				
	JDPA Z 2006 「ダクタイル鋳鉄管内面 エポキシ樹脂粉体塗装」廃止	昭和54年の本規格がJWWA規格となり、廃止した。				

年 次	規格		関	連	事 項		
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1027	農業用水用に使用するダクタイル鋳鉄管について、管と継 手に区分して規格を制定した。 〈主な内容〉					
	「ダクタイル鋳鉄直管 及びダクタイル鋳鉄	呼び径	管の	)種類	接合	形 式	
1981年 (昭和56年)	異形管(農業用水用)」制定 JDPA G 1028 「ダクタイル鋳鉄管継手 (農業用水用)」制定)	75~2600	1種管から5種管 75~2600 及び中間管種を 規定した		形、T形、		
	JDPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管防食用 ポリエチレンスリープ」 改正	昭和50年の 〈主な内容〉 呼び径1000				の長さを変更した。	
	(日本工業規格)  JIS G 5502  「球状黒鉛鋳鉄品」改正	〈主な内容〉	昭和50年の規格が改正された。 〈主な内容〉 FCD 37、FCD 80が追加された。				
	JIS G 5526		昭和52年の規格の名称を変更し、水道用以外の用途にも使用できるよう汎用性のある規格に改正された。 〈主な内容〉				
		呼び径	管の種	類	接合形式	備考	
	「ダクタイル鋳鉄管」改正	75~2600	)	Κŧ	重		
		75~ 350	)	A	形		
		75~2000	4種管及中間管	T	形	異形管は呼び径 75~250	
1982年		700~2600	が追加	U	形、UF形		
昭和57年)		300~ 900	) された	K	F形	-	
		100~ 450	)	S	Ⅱ形	-	
		500~2600	)	S	形		
		75~2600	) —	一 フ	ランジ形	_	
	JIS G 5527 「ダクタイル鋳鉄異形管」改正	区分	引張強さ kgf/mm²	伸 び %	試	験 片	
			42以上	10以上	供試管よ	り長さ50㎜以上	
		異形管	40以上     12以上     Yブロックよ       45以上     10以上     (JIS G 5502)		All the second second		
	JIS K 6353 「水道用ゴム」改正	昭和52年の規格が改正された。 〈主な内容〉 品質が引張強さを基準として分類され、スプリング より小分類された。			スプリング硬さに		

年 次	規 格		関連	事項		
1982年 (昭和57年)	(日本水道協会規格)  JWWA G 113  「水道用ダクタイル鋳鉄管」 制定  JWWA G 114  「水道用ダクタイル鋳鉄 異形管」制定	昭和57年のJIS G 5526・5527の改正に伴い、水道用としてJWWA規格が制定された。  JWWA G 113・114の制定に伴い、改正された。				
	JWWA Z 100 「水道用品表示記号」改正 JWWA Z 101 「水道用ダクタイル鋳鉄管類 の表示方法」改正					
	JWWA G 108 「水道用遠心力鋳鉄管」廃止 JWWA G 109 「水道用鋳鉄異形管」廃止	- 昭和44年の規格(高級鋳鉄管)が廃止された。				
	JWWA G 110 「水道用T形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止 JWWA G 111 「水道用T形ダクタイル 鋳鉄異形管」廃止	昭和48年の本規格がJIS規格となり、廃止された。				
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1025	下水道用に使用するダクタイル鋳鉄管について、管と継に区分して規格を制定した。 〈主な内容〉				
	「下水道用ダクタイル 鋳鉄直管及びダクタイル	呼び径	管の種類	接合形式		
	鋳鉄異形管」制定 JDPA G 1026 「下水道用ダクタイル 鋳鉄管継手」制定	75~2600	1種管から5種管 及び中間管種を 規定した	A形、K形、U形、T形、 フランジ形(RF形)		
	JDPA G 1027 「ダクタイル鋳鉄直管及び ダクタイル鋳鉄異形管 (農業用水用)」改正 JDPA G 1028 「ダクタイル鋳鉄管継手 (農業用水用)」改正	JIS G 5526・5527の改正に伴い、改正した。				

年 次	規 格	関 連 事 項				
	(日本工業規格) JIS G 5521 「水道用立型鋳鉄管」廃止 JIS G 5522 「水道用遠心力砂型鋳鉄管」 廃止 JIS G 5523 「水道用遠心力金型鋳鉄管」 廃止	昭和29年の規格(高級鋳鉄管)が廃止された。				
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)	昭和57年のJIS G 5526の改正並びにJDPA G 1025~1028 の制定及び改正に伴い、新たにJDPA規格として制定した。 〈主な内容〉				
	JDPA G 1029	呼 ぴ 径 接合形式				
	「ダクタイル鋳鉄管 推進工法用外装」制定	300~ 700				
1983年 (昭和58年)	推進工法用外教」制定	700~2600 U形、UF形				
	JDPA Z 2003 「ダクタイル鋳鉄管類の 表示記号」改正 JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の	昭和48年の規格にS1号マーク~S4号マークを追加し改正した。 昭和57年のJWWA Z 101の改正に伴い、改正した。				
	表示方法」改正 JDPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管防食用 ポリエチレンスリーブ」改正	また、規格名称も変更した。 昭和56年の規格にメルトフロレート及び密度を追加、伸び の値をISO規格に整合、内径及び折り径を拡大、施工が容 易にできるような表示規定を追加し、改正した。				
	JDPA Z 2009 「ダクタイル鋳鉄管用 外面特殊塗装」改正	昭和57年のJIS G 5526・5527の改正に伴い、改正した。				
	JDPA G 1014 「U形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」廃止 JDPA G 1015 「UF形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」廃止 JDPA G 1016 「T形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」廃止 JDPA G 1017	昭和55年の本規格を整理統合してJDPA G 1029として制な したため、廃止した。				
	「TC形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」廃止	昭和54年の規格を廃止した。				

年 次	規格		関 連	事 項			
	(日本工業規格)  JIS A 5314 「ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング」改正  JIS G 5528 「ダクタイル鋳鉄管内面 エポキシ樹脂粉体塗装」制定	昭和57年のJIS G 5526・5527の改正に伴い、改正された 〈主な内容〉 呼び径1600~2600が追加された。 また、水道用以外の用途にも使用できるよう汎用性のある 規格とし、規格名称も変更された。 昭和55年のJWWA G 112がJIS規格として制定された。					
	(日本下水道工業規格)	ダクタイル(主な内容)	DANA SEE CHANGE WITHOUT A	道協会規格として制定された。			
	JSWAS G-1	呼び径	管の種類	接合形式			
	「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 制定	75~2600	1種管から5種管 及び中間管種が 規定された	K形、A形、T形、U形 フランジ形(RF形)			
1984年 昭和59年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1025 「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 改定  JDPA G 1026 「下水道用ダクタイル  鋳鉄管継手」改正	JSWAS G-1制定に伴い、整合させて改正した。 また、規格名称も変更した。					
	JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル 鋳鉄管」改正 JDPA G 1028 「農業用水用ダクタイル 鋳鉄管継手」改正	JIS A 5314及びJIS G 5528の改正に伴い、整合させて改正した。 また、規格名称も変更した。					
	JDPA G 1030 「ダクタイル鋳鉄管」制定 JDPA G 1031 「ダクタイル鋳鉄異形管」制定	昭和57年のJIS G 5526・5527及びJWWA G 113+114 以外のダクタイル鋳鉄管について、JDPA規格として制定 した。					
	JDPA G 1032 「フランジ形ダクタイル 鋳鉄直管」制定	<ul><li>一体フランジ及び溶接フランジ形直管の規格として制定した。</li><li>〈主な内容〉</li><li>呼び径 … 75~1200</li><li>形 式 … 7.5kgf/cm²(RF形)</li></ul>					
	JDPA G 1033 「PI形・PⅡ形ダクタイル 鋳鉄管」制定	パイプ・イ: 規格を制定 〈主な内容〉 呼び径 …:	した。	ダクタイル鋳鉄管が開発され、			
	JDPA G 1034 「US形ダクタイル鋳鉄管」 制定	耐震用、耐軟弱地盤用で内面から接合できる継手が開発され、 規格を制定した。 〈主な内容〉 呼び径 … 700~2600					

年 次	規 格	関 連 事 項			
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」 改正	昭和57年のJIS G 5526・5527の改正及びJWWA G 113・114の制定に伴い、昭和58年の規格を改正した。また、規格名称も変更した。			
	JDPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリープ」改正	昭和58年の規格の製造方法及び検査方法などを改正した。 また、スリーブ固定用のゴムバンド及び締め具を追加し、 規格名称も変更した。			
	JDPA Z 2009 「ダクタイル鋳鉄管 外面特殊塗装」改正	JSWAS G-1の制定に伴い、整合させて改正した。 また、規格名称も変更した。			
1984年 (昭和59年)	JDPA G 1001 「K形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止 JDPA G 1002 「K形ダクタイル鋳鉄 異形管」廃止 JDPA G 1007 「U形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止 JDPA G 1008 「U形ダクタイル鋳鉄 異形管」廃止	昭和54年の規格がJIS規格となり、廃止した。			
	JDPA G 1009 「フランジ形ダクタイル 鋳鉄長管」廃止	昭和54年の規格がJIS規格となり、廃止した。			
	JDPA G 1010 「UF形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止 JDPA G 1011 「UF形ダクタイル鋳鉄 異形管」廃止 JDPA G 1012 「KF形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止 JDPA G 1013 「KF形ダクタイル鋳鉄	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
	「K形ダクタイル鋳鉄管用 FN形継手」廃止	昭和54年の規格を廃止した。			

年 次	規格	関 連 事 項				
1989年 (昭和59年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1019 「S形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止 JDPA G 1020 「S形ダクタイル鋳鉄 異形管」廃止 JDPA G 1021 「SⅡ形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止 JDPA G 1022 「SⅡ形ダクタイル鋳鉄 異形管」廃止 JDPA G 1022 「TSⅡ形ダクタイル	昭和54年の規格がJIS規格となり、廃止した。				
	鋳鉄管」廃止   JDPA Z 2003  「表示記号」廃止	昭和58年の規格をJDPA Z 2004に包含し、廃止した。				
	JDPA Z 2007 「ダクタイル鋳鉄管継手用 クロロプレンゴム輪」廃止	昭和52年の規格が、JIS G 5527の附属書に規定されたため、 廃止した。				
	JDPA Z 2008 「ダクタイル鋳鉄管継手用 ニトリルゴム輪」廃止	昭和53年の規格が、JIS G 5527の附属書に規定されたため、 廃止した。				
1005 65	(日本ダクタイル鉄管協会規格)	下水道用に使用する推進工法用ダクタイル鋳鉄管として規格を制定した。 〈主な内容〉				
1985年 (昭和60年)	JDPA G 1035 「下水道推進工法用	呼 び 径 接合形式				
	ダクタイル鋳鉄管」制定	300~700 T形 700~2600 U形、UF形				
	(日本工業規格)  JIS G 5502  「球状黒鉛鋳鉄品」改正	昭和57年の規格が改正された。 〈主な内容〉 黒鉛球状化率70%が規定された。				
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1029  「推進工法用ダクタイル  鋳鉄品」改正	昭和58年の規格に呼び径250T形を追求するとともに、管と外装の規格を統合し、規格名称も変更した。				
1986年 (昭和61年)	JDPA G 1033 「PI形・PⅡ形ダクタイル 鋳鉄管」改正	昭和59年の規格の付図について、直管及び異形管の区分の 明確化、異形管の管種の追加・削除などを行い、改正した。				
	JDPA G 1035 「下水道推進工法用 ダクタイル鋳鉄管」改正	昭和60年の規格に呼び径250T形及び呼び径250~200ST形を 追加し、改正した。				
	JDPA G 1037 「呼び径 5 0 mmダクタイル 鋳鉄管」制定	呼び径50T形ダクタイル鋳鉄管を遠心力鋳造する技術が開 発され、規格を制定した。				
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」 改正	昭和59年の規格にST形を追加し、改正した。				

年 次	規 格	関 連 事 項						
	<ul><li>(日本ダクタイル鉄管協会規格)</li><li>JDPA G 1037</li><li>「呼び径50mmダクタイル 鋳鉄管」改正</li></ul>	昭和61年の規格の管長を4mから3mに変更し、改正した。						
1988年	新鉄官」以正   JDPA Z 2009   ダクタイル鋳鉄管   外面特殊塗装」改正	昭和59年の規格に現地塗装用の塗装系(塩化ゴム及びボリウレタン)を追加し、改正した。 なお、プライマとして亜鉛系塗装を準備とした。						
昭和63年)	JDPA Z 2010 「水道用ダクタイル鋳鉄管 外面塗装」制定	ダクタイル鋳鉄管用の外面塗装の規格を制定した。						
	JDPA Z 2011 「ダクタイル鋳鉄異形管内面 エポキシ樹脂塗装」制定	異形管用のエポキシ系内面塗装の規格を制定した。						
	JDPA Z 2013 「ダクタイル鋳鉄異形管 モルタルライニング」制定	呼び径700~2600異形管に適用するモルタルライニングの 規格を制定した。						
	(日本工業規格)  JIS G 5502  「球状黒鉛鋳鉄品」改正	昭和61年の規格が改正された。 〈主な内容〉 FCD 370、FCD 400、FCD 450、FCD 500、 FCD 600、FCD 700、FCD 800						
	JIS G 5526 「ダクタイル鋳鉄管」改正	昭和57年の規格の直管及び異形管の機械的性質を同一にし、 直管のへん平試験が削除され、改正された。 また、SI単位(第3段階)への移行及びUS形、PI形、 PII形が追加された。 〈主な内容〉						
1989年		区分     引張強さ 伸 び 硬 さ N/mm²     ペルア試験 試 験 片						
昭和64年) 平成元年)	JIS G 5527	直管 削除された 供試管より 必要な長さ						
	「ダクタイル鋳鉄異形管」 改正	異形管     420以上 10以上 230以下     Y7ロックより探取 (JIS G 5502 のB号)						
	JIS G 5524 「水道用鋳鉄異形管」廃止	昭和29年の規格(高級鋳鉄管)が廃止された。						
	(日本水道協会規格)  JWWA K 115  「水道用タールエポキシ樹脂 塗料塗装方法」改正	塗料の衛生性より管の内面の水に接する面を本規格の適用 外として改正された。						
	JWWA K 135 「水道用液状エポキシ樹脂 塗料塗装方法」制定	タール系塗料に代わる塗料として、管内面に適用するエポ キシ系塗料及び塗装方法として制定された。						

年 次	規格	関 連 事 項					
1989年	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル  鋳鉄管」改正	昭和63年3月農林水産省の土地改良事業計画設計基準「設計水路工(その2)パイプライン」の改定に伴い、JIS 65526・5527以外のもので農業用に使用する管を追加し、改正した。					
(昭和64年) (平成元年)	JDPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」改正	昭和59年の規格の材料及び製造方法、物理的性質、寸法、 検査の抜き取り数などを変更し、改正した。					
	JDPA G 1028 「農業用水用ダクタイル 鋳鉄管継手」廃止	昭和59年の規格をJDPA G 1027に包含し、廃止した。					
	(日本水道協会規格)						
1990年 (平成2年)	JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正 JWWA G 114	平成元年のJIS G 5526・5527の改正に伴い、改正された。 〈主な内容〉 呼び径100及び150のSⅡ形ロックリングの形状を、改良 タイプに変更し改正された。					
	「水道用ダクタイル鋳鉄 異形管」改正						
	(日本下水道協会規格)	昭和61年のJDPA G 1035がJSWAS規格として制定された。 〈主な内容〉					
	JSWAS G-2	呼 び 径 接合形式					
	「下水道推進工法用ダクタイル 鋳鉄管」制定	250~ 700 T形 700~2600 U形、UF形					
	NAME OF THE PARTY	700~2600 U形、UF形 250~2000 ST形					
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)	自然流下系管路用に適用する推進工法用ダクタイル鋳鉄管 として制定した。 〈主な内容〉					
	JDPA G 1036 「下水道推進工法用	呼 び 径 種 類 接合形式 用 途					
100-6-	GS形ダクタイル鋳鉄管」	300~1000					
1991年 (平成3年)	制定	1 類   G S S 形   耐炭・耐軟物地監管路用 機械的性質 … 平成元年のJIS G 5502の4種相当品					
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」 改正	昭和61年の規格に異形管工業会の記号を全ての異形管に鋳 出し表示するよう改正した。					
	JDPA Z 2011 「ダクタイル鋳鉄異形管内面 液状エポキシ樹脂塗装」改正	平成元年のJWWA K 135の制定に伴い、改正した。 また、規格名称も変更した。					

年 次	規格	関 連 事 項					
	(日本水道協会規格)  JWWA G 113  「水道用ダクタイル鋳鉄管」  改正  JWWA G 114  「水道用ダクタイル鋳鉄  異形管」改正	平成2年の規格が改正された。 〈主な内容〉 JWWA K 139の制定に伴い、塗装規定が変更された。 呼び径75 S II 形の追加及び呼び径75及び100 S II 形切管用 挿しロリングの形状が改正された。 また、異形管の試験の供試材にJIS G 5502のノックオラ 形が追加された。					
1992年 (平成4年)	JWWA K 139 「水道用ダクタイル鋳鉄管 合成樹脂塗料」制定	タール系塗料の衛生性の問題から、水道用ダクタイル鋳鉄 管用の塗料として、合成樹脂塗料が制定された。					
	(日本下水道協会規格)  JSWAS G-1  「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	平成元年のJIS G 5526・5527 規格改正に伴い、改正された。 〈主な内容〉 管の種類が1種管から5種管となり、中間管種が削除され、 A形継手も削除された。 また、管内面塗装として液状エポキシ樹脂塗装が追加された。					
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1037  「呼び径50 mm ダクタイル  鋳鉄管」改正	昭和63年の規格に離脱防止機能付き両受異形管 15種類を 追加し、改正した。					
	JDPA G 1038	管内を効果的に洗浄できるよう枝管をうず巻状にしたフランジ付きT字管の規格を制定した。 (主な内容)					
	「うず巻式ダクタイル鋳鉄 フランジ付きT字管	呼び径 接合形式					
	(消火栓用)」制定	100~350 K形、A形					
		100~250   T形					
	JDPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」改正	平成元年の規格に「日本ダクタイル鉄管協会認定品」の表示を追加し、改正した。 また、熱融着部の伸びの値(250%以上)を規定した。					
	JDPA Z 2009 「ダクタイル鋳鉄管 外面特殊塗装」改正	昭和63年の規格からタールエポキシ樹脂塗料を削除し、改正した。					

年 次	規 格		関 j	車 事 項			
	(日本水道協会規格)	平成4年のJDPA規格がJWWA規格として制定された。 〈主な内容〉					
	JWWA G 114-2 「水道用うず巻式ダクタイル 鋳鉄フランジ付きT字管 (消火栓用)」制定	呼び径	接合形式				
		75~350 75~250	K形、A形 T形				
	(日本下水道協会規格)	平成4年のJSWAS G-1改正に伴い、整合性を図り、ST形及び中間管種を削除、GS形及びGSS形が追加され、改正された。 〈主な内容〉					
	1811/18 0 0	呼び径	区 分	接合形式	用 途		
	JSWAS G-2	250~ 700	I類	T形			
	「下水道推進工法用	700~2600	(圧送用)	U形、UF形			
	ダクタイル鋳鉄管」改正		Ⅱ類	GS形	一般管路用		
		300~1000	(自然流下用)	GSS形	耐震·耐軟弱 地盤管路用		
1993年 (平成5年)	「推進工法用ダクタイル 鋳鉄管」改正 JDPA G 1039	構造物付近などで急激な地盤変動に対応できる可とう管ユニットが実用化されたため、規格を制定した。 〈主な内容〉					
	「ボール式ダクタイル鋳鉄 可とう管ユニット」	呼び径	最大偏位量	接合形式			
	制定	75~ 450	300	SⅡ形、フランジ形			
		500~1200	0 500、1000 BJ形				
	JDPA G 1040 「ダクタイル鋳鉄管用 ステンレス鋼(SUS 304)製 ボルト・ナット」制定	耐食合金として一般的に普及しているステンレス鋼(SUS 304)製のボルト・ナットが、ダクタイル鋳鉄管の接合用として普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉 適用接合形式…K形、A形、KF形、SI形、S形、フランジ形					
		地震時又は緊急時の用水確保のためのダクタイル鋳鉄製貯水槽が普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉					
	JDPA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽	呼び径	貯水容量 m	形 式 接合形	迁		
	(耐震用·緊急用)」制定	1500 2000 50 2600	60 100	散型、UF形、 以中型 LUF			
	JDPA Z 2010 「ダクタイル鋳鉄管合成 樹脂塗装」改正	平成4年のJWWA K 139制定に伴い、整合性を図り、塗装方法、塗装範囲及び検査範囲を規定し、改正した。また、規格名称も変更した。					

年 次	規 格	関 連 事 項						
1994年	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1040  「ダクタイル鋳鉄管用  ステンレス鋼  (SUS 304、SUS 403) 製	平成5年の規格にステンレス鋼 (SUS 403) 製ポルト・ナットを追加し、改正した。						
11:20-17	ポルト・ナット」改正							
11	JDPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」改正	平成4年の規格に呼び径100のポリエチレンスリーブ長さ6000mmを追加、「粉体塗装管」の表示追加、締め具の衝撃強さの単位の変更、ゴムバンドの物理的性質の検査の一組の質量を変更し、改正した。						
		平成元年の規格がISO 1083 との整合を図り改正された。						
		(主な内容)						
	(日本工業規格)  JIS G 5502  「球状黒鉛鋳鉄品」改正	FCD 350-22、FCD 350-22L 別鋳込み FCD 400-18、FCD 400-18L 供試材に FCD 400-15、FCD 450-10 よる場合 FCD 500-7、FCD 600-3 FCD 700-2、FCD 800-2						
		本体付き FCD 400-18A、FCD 400-18A L 供試材に FCD 400-15A、FCD 500-7A よる場合 FCD 600-3A 黒鉛球状化率がISO (ISO 1083) 法の80%に変更された。						
	JIS K 6353 「水道用ゴム」改正	昭和57年の規格に国際単位系 (SI) を導入し、改正された。						
1995年	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル  鋳鉄管」改正	平成元年の規格に国際単位系 (S I) を導入、機械的性質をJISG 5526・5527に整合、塗料にJWWA K 139を適用し、改正した。						
(平成7年)		平成5年の規格に植込みポルトレスタイプを追加、U形 UF形、US形の呼び径700を削除し、改正した。 〈主な内容〉						
	JDPA G 1029 「推進工法用ダクタイル	呼び径 接合形式 推進管のタイプ						
	鋳鉄管」改正	250~ 700 T形 植込みボルト付きタイプ、						
		800~2600 U形、US形 植込みポルトレスタイプ UF形						
	JDPA G 1030・1031 「ダクタイル鋳鉄管・ ダクタイル鋳鉄異形管」改正	昭和59年の規格にJIS、JWWA、JSWAS規格に規定されていない異形管及び接合部品を追加し、改正した。 〈主な内容〉 乙字管、空気抜き用ポルトが使用できるT形栓、16K・20K 高圧バルプ用仕切弁副管B1号、呼び径100・150S II 形二受丁字管(枝管の呼び径75)、呼び径150~450改良型のSII 形切管用挿しロリングを規定した。						
	JDPA G 1037 「呼び径50mmダクタイル 鋳鉄管」改正	形切管用挿し口リングを規定した。 平成4年の規格を水道以外の用途にも使用できるよう汎用 性のある規格に改正した。 また、栓の形状を空気抜き用ポルトが使用できるように変 更した。						

年 次	規 格	関 連 事 項					
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1038	平成4年の規格にSⅡ形、呼び径75、枝管の呼び径100を追加し、改正した。 (主な内容)					
	「うず巻式ダクタイル鋳鉄 フランジ付きT字管	呼び径 接合形式 枝管の呼び径					
	(消火栓用)」改正	75~350 K形、A形、SII形 75~250 T形 75、100					
1995年 (平成7年)	JDPA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管」 制定	SⅡ形管と同等の性能〔伸縮量:管長の±1%、離脱阻止力:0.3D(呼び径㎜)tonf、許容屈曲角度:4°〕を有し、プッシュオンタイプで継手の接合を容易にした耐地盤変動用の継手が普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉 呼び径 … 75~250 直管の挿し口突部の形成方法 … ろう付け又は溶接					
	JDPA Z 2002 「ダクタイル管継手用滑剤」 改正	昭和53年の規格に種類及び溶出性を追加し、改正した。 〈主な内容〉 滑剤の種類 … ポリカルボン酸塩系、脂肪酸石鹸系					
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1030・1031  「ダクタイル鋳鉄管・ダクタイル  鋳鉄異形管」改正	平成7年の規格にJIS、JWWA、JSWAS規格に規定されていない異形管及び接合部品を追加し、改正した。 〈主な内容〉 呼び径75~450SⅡ形5 % 曲管、呼び径500~1600S形切管用挿しロリングを追加した。 平成7年の規格に直管の挿し口突部の形成方法として管に溝加工を行わない溶接及び異形管に5 % 曲管を追加、ライナの塗装をエポキシ樹脂粉体塗装として規定、セットボルトを六角穴付き止めねじに変更し、改正した。					
1996年	JDPA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管」改正						
(平成8年)	JDPA G 1043 「ダクタイル鋳鉄製水管橋」 制定	T形管の継手部にフランジを設け継手の曲げ剛性を大きくしたFT形とSⅡ形管とを組合わせることにより長い支間長の水管橋の架設が可能となり、規格を制定した。 〈主な内容〉 呼び径 … 75~350					
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」 改正	JWWA G 114-2、JDPA G 1036・1038・1039・1040・1041・1042規格の制定及びJDPA Z 2011規格の改正に伴い、平成3年の規格を改正とした。 また、P L対策として受口部に接合形式の表示を追加した。					
	(日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴム」改正	平成7年の規格のスプリング硬さをデュロメータ硬さに変更、 永久伸びを削除、浸出性を水道法施行令第4条の "給水装置の構造及び材質の基準" の明確化・性能基準化に対応して制定されたJIS S 3200-7との整合を図り、改正された。					
1997年 (平成9年)	(日本下水道協会規格)  JSWAS G-1  「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	社会基盤整備における管路の耐震化の要望に沿って、平成4年の規格に耐震管路に用いられる継手を追加し、改正された。 〈主な内容〉 KF形、UF形、SI形、US形を追加、管の材料(引張強さ420N/nm²以上)の記号をFCDとして規定、黒鉛球状化率を変更(NIK法の70%からISO法の80%)した。					
	JSWAS G-2 「下水道推進工法用 ダクタイル鋳鉄管」改正	平成5年の規格に耐震管路用のUS形を追加、T形、U形の植込みボルトレスタイプを追加、U形、UF形の呼び径700を削除、原管規格のJSWAS G-1との整合を図り、改正された。					

年 次	規格		関	連	事	項		
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1029  「推進工法用ダクタイル鋳鉄管」		US形の受口部には外装を施さないものとして、平成7年 の規格を改正した。					
1997年 (平成9年)	改正   JDPA G 1041   「ダクタイル鋳鉄製貯水槽 (耐震用・緊急用)」改正   JDPA G 1042   NS形ダクタイル鋳鉄管」改正   JDPA Z 2005   ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」改正   JDPA Z 2010   ダクタイル鋳鉄管	平成5年の規格の呼び径2600に公称貯水容量60㎡。型式に緊急遮断弁を直接貯水槽に搭載する集中Ⅱ型及び人孔(枝管)の呼び径700の帽と栓を追加し、改正した。平成8年の規格の栓の解体が難しいことから帽に変更し、改正した。平成6年の規格のポリエチレンスリープの表示例を本文の付図とし、水道用、ガス用以外に用いる呼び径1500の表示の見直し及びゴムバンドの試験方法を変更し、改正した。平成5年の規格の適用範囲にNS形の追加及び異形管の外面に用いる塗装にエポキシ樹脂粉体塗装を追加、継手部に						
	合成樹脂塗装」改正	用いる塗料	料を見直し、	改正し	to			
	(日本工業規格)  JIS A 5314  「ダクタイル鋳鉄管  モルタルライニング」改正	ISO 4179との整合を図って、昭和59年の規格が改正された。 ただし、ライニングの厚さ、許容ひび割れ幅などは、海外 との水質の違いなどから整合されなかった。 〈主な内容〉 厚さ…許容差を削除し、平均最小厚さ及び一点の最小厚さ の規定に変更された。 セメントと細骨材の配合比…1:1.5~1:3.5に変更された。 養生…0℃より高い温度とされ、蒸気養生、並びに蒸気及						
		浮き及び表示…規定が削除された。 ISO 2531との整合を図って、平成元年の規格が改 ただし、形状、寸法(外径、管厚など)、継手の種 械的性質の伸びは、普及率、地理的条件(地震国 どを考慮して整合されなかった。 (主な内容)						
	LIC C FERG	区分	項目		Į,	内 容		
1998年 (平成10年)	JIS G 5526 「ダクタイル鋳鉄管」改正	直管、 異形管	接合形式 硬さ 黒鉛球状化率		生じた	び径75 S Ⅱ 形追加 場合に測定		
		A	形状、寸 法及びそ の許容差	有効長 外径(I 許容差 管の受	及び吗 ) <sub>2</sub> 寸法 を削除 口部 P	乎び径75~250 K 形管の )許容差を変更、質量の 、呼び径75~250mmT # 寸法を変更		
	/ #33600	直管	外観試験	引張試 験を規	験にバ 定し、	値及び測定方法を追加 ッチ試験及び工程管理記 一組の本数及び試験片の 水圧試験に保持時間を通		
	JIS G 5527 「ダクタイル鋳鉄異形管」改正	題 亚公纳	形状、寸 法及びそ の許容差	質量の K形管 T形用	の外径 継ぎ輪	を削除、呼び径75〜250 (D₂寸法)許容差を変更、 を K 形継ぎ輪に変更、う ジ付き T 字管(消火栓用)		
		異形管	試験	引張試 験を規 鋳込み	定し、 供試材	ッチ試験及び工程管理記 供試材は本体付き又は別 、最大バッチ及び試験片 、水圧試験に保持時間を		

年 次	規格		13	連 事 項			
1998年 (平成10年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1038  「うず巻式ダクタイル鋳鉄  フランジ付きT字管 (消火栓用)」改正	平成7年の規格にNS形を追加し、改正した。					
	(日本水道協会規格)  JWWA G 113  「水道用ダクタイル鋳鉄管」	平成10年のJIS G 5526・5527の改正に伴い、ISO 2531 との整合を図り、平成4年の規格が改正された。ただし、 形状、寸法(外径、管厚など)、継手の種類及び機械的性質 の伸びは、普及率、地理的条件(地震国など)などを考慮 して整合されなかった。また、黒鉛球状化率及び質量の許 容差は、管理項目として重要なことから整合されなかった。 (主な内容)					
	改正	区分	項目	内 容			
		直管、	接合形式硬さ	A形削除、呼び径75~250NS形追加 疑義が生じた場合に測定			
		異形管	黒鉛球状化率	JIS G 5502の改正に伴い、ISO(ISC 1083)法の80%に変更			
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル鋳鉄異形管」 改正	直管	形状、寸 法及びそ の許容差 外観	有効長 及び 呼び径 75~250K 形管の 外径(D <sub>2</sub> 寸法) 許容差を変更、呼び径75 ~250 T 形管の受口部 P 寸法を変更 真直度の規定値及び測定方法を追加			
			試験	引張試験の一組の本数及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加			
1999年 (平成11年)		異形管	形状、寸 法及びそ の許容差	呼び径75~250K形管の外径(Dz寸法) 許容差を変更、T形用継ぎ輪をK形線 ぎ輪に変更、うず巻式フランジ付きT 字管(消火栓用)を追加			
			試験	引張試験の最大バッチ及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加			
	JWWA G 114-2 「水道用うず巻式ダクタイル 鋳鉄フランジ付きT字管 (消火栓用)」廃止	平成5年の規格がJWWA G 114に包含され、廃止された。					
	(日本下水道協会規格)  JSWAS G-1  「下水道用ダクタイル鋳鉄管」  改正	平成10年のJIS G 5526・5527及びJIS A 5314の改正に 伴い、整合を図って平成9年の規格が改正された。また、 N S形が追加された。					
	JSWAS G-2 「下水道用推進工法用 ダクタイル鋳鉄管」改正	JSWAS G-1の改正に伴い、整合を図って呼び径250T形管の受口部P寸法及び挿し口部Z'寸法を変更して、平成9年の規格が改正された。					
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル  鋳鉄管」改正	100000000000000000000000000000000000000	EのJIS G 年の規格を	5526・5527の改正に伴い、整合を図っ 改正した。			
	JDPA G 1029 「推進工法用ダクタイル 鋳鉄管」改正	い、整台	↑を図って№	5526並びにJWWA G 113の改正に伴 呼び径250T形管の受口部P寸法及び 更して、平成7年の規格を改正した。			

年 次	規 格		関 連	事	項				
	JDPA G 1033 「PI形・PⅡ形ダクタイル 鋳鉄管」改正				WWA G 113・114 の規格を改正した。				
	JDPA G 1037 「呼び径50 m ダクタイル 鋳鉄管」改正	及びJSWA	平成10年のJIS G 5526・5527並びにJWWA G 113・114 及びJSWAS G-1の改正に伴い、整合を図って平成7年 の規格を改正した。						
	JDPA G 1038 「うず巻式ダクタイル鋳鉄 フランジ付き T字管 (消火栓用)」改正	The state of the state of	平成10年のJIS G 5527並びにJWWA G 114の改正に伴い、整合を図って平成7年の規格を改正した。						
1999年 (平成11年)	JDPA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽	の改正に伴	平成10年のJIS G 5526・5527並びにJWWA G 113・114 の改正に伴い、整合を図って平成9年の規格を改正した。						
	<ul><li>(耐震用・緊急用)」改正</li><li>JDPA G 1042</li><li>「NS形ダクタイル鋳鉄管」</li></ul>	平成10年の	JIS G 5526 · 5	527並びにJ	₹600を削除した。 WWA G 113・114 の規格を改正した。				
	改正 JDPA G 1043	また、うずれ	後式フランジ付き	T字管 (消	火栓用)を追加した。 WWA G 113・114				
	「ダクタイル鋳鉄製水管橋」改正  JDPA G 1044 「浅層埋設形ダクタイル鋳鉄 フランジ付きT字管 (空気弁用・消火栓用)」 制定	建設省の通 60 cm まで活	の改正に伴い、整合を図って平成8年の規格を改正した。 建設省の通達によって、呼び径300以下の管の埋設深さが 60 cm まで浅くできるようになったことから、枝管の高さを できるだけ短くしたフランジ付きT字管の規格を制定した。						
		呼び径	接合形式	枝	管				
		75~300 75~250	K形 T形、NS形	呼び径 75	フランジ 7.5K				
2000年 (平成12年)	(日本水道協会規格)  JWWA A 113  「水道用ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング」制定	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令の公布に伴い、JIS A 5314の規定内容に衛生性の規定を追加し、制定された。 (主な内容) シールコートの浸出性及び管内水のpH値の増加量が規定された。							
		オルナー							
2000年 (平成12年)	JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	に伴い、平 〈主な内容〉 直管、異形 S形・US 径500~120 びに浅層埋	成11年の規格が高 管及び接合部品の 形直管の挿し口 00 S 形受口部・ 設形ダクタイル	改正された。 浸出性の追定 突部の性能 挿し口部の 寿鉄フラン	を定める省令の公布 加、NS形・SII形・ 規定への変更、呼び 寸法許容差の変更並 び付きT字管(空気弁				
	「水道用ダクタイル鋳鉄管」	水道法に基 に伴い、平) 〈主な内容〉 直管、異形 S形・US 径500~12( びに浅層埋 用・消火栓)	成11年の規格が 管及び接合部品の 形直管の挿し口 00 S 形受口部・	改正された。 浸出性の追 突部の性能 挿し口部の 寿鉄フラン:	加、NS形・SⅡ形 規定への変更、呼び 寸法許容差の変更並 ジ付きT字管(空気弁				
	「水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正 JWWA G 114	水道法に基 に伴い、平) 〈主な内容〉 直管、異形 S形・US 径500~12( びに浅層埋 用・消火栓)	或11年の規格が 管及び接合部品の 形直管の挿し口 00 S 形受口部・ 設形ダクタイル針 用)が追加された	改正された。 浸出性の追) 突部の性能 挿し口部の 寿鉄フラン: た。 付きT字管(空	加、NS形・SⅡ形 規定への変更、呼び 寸法許容差の変更並 ジ付きT字管(空気弁				
	「水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	水道法に基 に伴い、平) 〈主な内容〉 直管、異形 S形・US 径500~120 びに浅層埋。 用・消火栓〉 浅層埋設形が	成11年の規格が 管及び接合部品の 形直管の挿し口: 00 S 形受口部・: 設形ダクタイル録 用)が追加された でクタイル鋳鉄フランジ 接合形式 K形	改正された。 浸出性の追 突部の性能 挿し口部の 寿鉄フラン: こ。 付きT字管(空	加、NS形・SⅡ形・ 規定への変更、呼び 寸法許容差の変更並 ジ付きT字管(空気角 気弁用・消火栓用) 管				

年 次	規格	関 連 事 項
	(日本水道協会規格)	
	JWWA K 135 「水道用液状エポキシ樹脂塗料 塗装方法」改正	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令の公布に 伴い、平成元年の規格が改正された。
	JWWA Z 108  「水道用資機材 – 浸出試験方法」 制定  JWWA Z 110  「水道用資機材 – 浸出液の分析方法」制定	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令の公布に 伴い、省令の適用を受ける水道用資機材の統一的な浸出試験 方法及び浸出液の分析方法規格として制定された。
	(日本下水道協会規格)	
	JSWAS G-1 「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 一部改正	呼び径500~1200 S 形受口部・挿し口部の寸法許容差を変更 し、平成11年の規格が一部改正された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)	
	JDPA G 1030・1031 『ダクタイル鋳鉄管・ダクタイル 鋳鉄異形管』改正	JWWA A 113、JWWA G 113及びJSWAS G-1の制定 改正に伴い、整合を図って平成8年の規格を改正した。
	JDPA Z 2002 「ダクタイル鋳鉄管継手用滑剤」 改正	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令の公布に 伴い、整合を図って平成7年の規格を改正した。
2000年 (平成12年)	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」 改正	JIS、JWWA、JSWAS、JDPA 規格の制定・改正に伴い、管 類の見直しを行って平成8年の規格を改正した。 また、呼び径75~250 T形直管の受口P寸法の変更に伴い 挿し口白線表示位置を変更した。
	JDPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」 改正	引用 JIS の廃止に伴い、対応する JIS に変更し、平成 9年の 規格を改正した。
	JDPA G 1025 「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 廃止 JDPA G 1026 「下水道用ダクタイル 鋳鉄管継手」廃止 JDPA G 1034 「US形ダクタイル鋳鉄管」 廃止	昭和59年の規格を廃止した。
	JDPA G 1035 「下水道推進工法用 ダクタイル鋳鉄管 」廃止	昭和61年の規格を廃止した。
	JDPA G 1036 「下水道推進工法用 GS形ダクタイル鋳鉄管」 廃止	平成3年の規格を廃止した。
	JDPA G 1038 「うず巻式ダクタイル鋳鉄 フランジ付きT字管 (消火栓用)」廃止	平成11年の規格が JWWA G 114となり、廃止した。

年 次	規格	関 連 事 項
2000年(平成12年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1044 「浅層埋設形ダクタイル鋳鉄 フランジ付きT字管 (空気弁用・消火栓用)」廃止	平成11年の規格がJWWA G 114となり、廃止した。
	JDPA Z 2013 「ダクタイル鋳鉄異形管 モルタルライニング」廃止	内面エポキシ樹脂粉体塗装及び液状エポキシ樹脂塗装の普及 に伴い、昭和63年の規格を廃止した。
	(日本工業規格)	平成7年の規格が改正された。
001	No. 20 2022	〈主な内容〉
	JIS G 5502	黒鉛球状化率算出の黒鉛及び介在物の大きさが変更された。
	「球状黒鉛鋳鉄品」改正	[2.4.4.1053.700.) #10294.11.004.23.04.4.2014.04.4.0
- A 1	(日本水道協会規格)	
	JWWA G 113	
	「水道用ダクタイル鋳鉄管」	SⅡ形バックアップリングの物性及び試験方法が変更され、
	一部修正	平成12年の規格が一部修正された。
	JWWA G 114	T MATE TO MATE A HAPPING C NO. CO
	「水道用ダクタイル鋳鉄異形管」	
	一部修正	
	(日本下水道協会規格)	
		SI形パックアップリングの物性及び試験方法、並びにNS
	JSWAS G-1	形切管用挿し口リング及びロックリング心出し用ゴムの形状
	「下水道用ダクタイル鋳鉄管」	寸法、質量が変更され、平成11年の規格が一部改正された。
2001年	一部改正 (日本ダクタイル鉄管協会規格)	
(平成13年)	(ロギラグライル) (日本ラグライル)	
(十)及13平)	JDPA G 1033	
	「PI形・PI形ダクタイル	JWWA G 113・114の改正に伴い、整合を図って平成の規格を改正した。
	鋳鉄管」改正	
	JDPA G 1037	
	「呼び径50 ダクタイル鋳鉄管」	
	改正	
	JDPA G 1041	JWWA G 113・114及び二次飲料水兼用耐震性貯水槽の改正
	「ダクタイル鋳鉄製貯水槽	に伴い、整合を図って公称貯水容量40m³を追加し、平成11
	(耐震用·緊急用)」改正	年の規格を改正した。
	JDPA G 1042	
	「NS形ダクタイル鋳鉄管」改正	JWWA G 113・114の改正に伴い、整合を図って平成11年
	JDPA G 1043	の規格を改正した。
	「ダクタイル鋳鉄製水管橋」改正	The state of the s
	JDPA Z 2005	ポリエチレンスリーブの強度及び施工性の向上を図って材料
	「ダクタイル鋳鉄管用	を変更及び継手部用固定ネットを追加し、平成12年の規格を
	ポリエチレンスリープ」改正	改正した。
	JDPA Z 2010 「ダクタイル鋳鉄管	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令との整合
	タクタイル鋳鉄官   合成樹脂塗装   改正	及び管の受口内面の塗装仕様を見直し、平成9年の規格を改正した。
		dL Left. 0
	「ダクタイル鋳鉄異形管内面	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令との整合
	11 / / / 1 / 別がからい日に1回	を図って、平成3年の規格を改正した。

年 次	規 格	関 連 事 項
	(日本水道協会規格)  JWWA G 112  「水道用ダクタイル鋳鉄管 内面エポキシ樹脂粉体塗装」 改正	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令との整合を図って、昭和55年の規格が改正された。 〈主な内容〉 塗料の試験規格がJIS K 5600シリーズに変更された。 また、浸出試験はJWWA Z 108、検水の分析はJWWA Z 110の附属書及び新たに規定した附属書1 (規定)、附属書 2 (規定)によって行うように変更された。
2002年 (平成14年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA Z 2004  「ダクタイル鋳鉄管類の 表示(追補1)」改正	JDPA Z 2005の改正に伴い、ポリエチレンスリープの表示方法を見直し、平成12年の規格を改正した。
	JDPA Z 2009 「ダクタイル鋳鉄管 外面特殊塗装」改正 JDPA Z 2015 「水道用ダクタイル鋳鉄管	環境面から鉛系塗料及び性能面から塩化ゴム系塗料を削除、 現地塗装にアクリルNAD系艶有塗料を追加し、平成4年の 規格を改正した。 水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令に整合 させてJWWA A 113が制定されたこと及びISOによってシ
	モルタルライニングー シールコート」制定	ールコートの塗膜の品質について規格化が進められている ことから、シールコートの品質の規格を制定した。
2003年(平成15年)	(日本水道協会規格) JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 一部修正 JWWA G 114	接合部品 I 類(ライナ以外)にエポキシ樹脂粉体塗装を行う場合が追加され、平成 13 年の規格が一部修正された。
	「水道用ダクタイル鋳鉄異形管」 一部修正 JWWA K 156 「水道施設用ゴム材料」制定	JIS K 6353 (水道用ゴム) の浸出性は、給水装置の構造 及び材質の基準に関する省令が適用されているため、水道 施設用として適合しないおそれがあることから、水道施設 の技術的基準を定める省令を適用する規格が制定された。
	(日本下水道協会規格)  JSWAS G-1  「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	開削工法用に短い管長のGS形管を追加、NS形、SI形、S形、US形直管の挿し口突部の性能規定への変更、ダクタイル鋳鉄管関連JISとの整合、ねじ及び塗料関係JISの廃止に伴う対応JISへの置き換えなどで、平成11年の規格が改正された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1042 「N S 形ダクタイル鋳鉄管 (追補 1)」改正	関連JISの廃止に伴う対応JISへの置き換え、JWWA K 156の制定及びJWWA G 113・114の一部改正に伴う整合、切管用挿しロリング〔タッピンねじタイプ〕を追加し、平成13年の規格を改正した。
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」 改正	(社)日本水道協会の「検査工場の協力工場に関する取り扱い要領」の改正に伴う委託、受託表示の明確化、管内作業軽減への対応に伴う呼び径700 K形、S形管の挿し口部白線表示の追加及びJDPA G 1042の改正に伴うNS形切管用挿し口リング [タッピンねじタイプ] の追加などで、平成14年の規格を改正した。
	JDPA Z 2010 「ダクタイル鋳鉄管 合成樹脂塗装」改正 JDPA Z 2016 「ダクタイル鋳鉄管内面 エポキシ樹脂粉体塗装」制定	塗料の組成に環境調和型の材料を追加、塗料関係のJISの廃止に伴う対応JISへの置き換え、浸出試験方法を変更し、平成13年の規格を改正した。 直管及び異形管の内面に塗装する環境調和型のピスフェノールFから成るエポキシ樹脂に限定したエポキシ樹脂粉体塗装の規格を制定した。

年 次	規格	関 連 事 項
	(日本水道協会規格)	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準及び
	JWWA A 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング」改正 JWWA G 112	浸出試験方法を変更し、平成12年の規格が改正された。
	「水道用ダクタイル鋳鉄管 内面エポキシ樹脂粉体塗装」 改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準及び 浸出試験方法を変更し、平成14年の規格が改正された。
	JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	厚生労働省令の一部改正、JWWA G 112の改正、JWWA K 156の制定に伴い、整合を図って平成15年の規格が改正された。 (主な内容) 厚生労働省令の一部改正、JWWA G 112の改正及びJWWA K 156の制定との整合、呼び径1600以上の中間管種(1.5種管、2.5種管、3.5種管、4.5種管)の削除、SII形、S形及びUS形長尺継ぎ輪の削除、NS形切管用挿しロリング〔リベットタイプ〕の形状、寸法の変更、NS形切管用挿しロリング〔タッピンねじタイプ〕の追加、接合部品の材料の
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル鋳鉄異形管」 改正	統合[ダクタイル鋳鉄材料はFCD (420-10)、ステンレス材料は原則SUS304]、管の内面に使用する軟鋼材料(SS400)のSUS304への変更、ゴム輪の接合形式の表示を使用できる全ての接合形式に変更された。
	JWWA K 135 「水道用液状エポキシ樹脂塗料 塗装方法」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準及び 浸出試験方法を変更し、平成12年の規格が改正された。
2004年 (平成16年)	JWWA K 156 「水道施設用ゴム材料」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準及び 浸出試験方法を変更し、平成15年の規格が改正された。 JWWA K 135に比べて溶剤臭がなく、作業環境への影響
	JWWA K 157 「水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗料 塗装方法」制定	が少ない無溶剤形エポキシ樹脂塗料が開発され、塗料及び 塗装方法の規格として制定された。 〈主な内容〉 溶剤を含まないエポキシ樹脂塗料で、その組成の原料が規 定された。
	JWWA Z 108 「水道用資機材 – 浸出試験方法」 改正 JWWA Z 110 「水道用資機材 – 浸出液の分析方法」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出試験方法及び浸出液 の分析方法を変更し、平成12年の規格が改正された。
	(日本下水道協会規格)  JSWAS G-1  「下水道用ダクタイル鋳鉄管」  一部改正	呼び径 $300\sim2000$ T形直管の受口外径 $(D_5$ 寸法) の寸法許容差の変更、接合部品の材料の統合 $[ダクタイル鋳鉄材料はFCD(420-10)、ステンレス材料は原則SUS304] 及び管の内面に使用する軟鋼材料(SS400)のSUS304への変更などで、平成15年の規格が一部改正された。$
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル鋳鉄管」 改正	管の許容差の見直し、関連JISの改正に伴う規定内容の整合及び管種を追加し、平成11年の規格を改正した。 (主な内容) 呼び径700以上の管外径(D₂寸法) 許容差及びT形管受口部外径(D₅寸法) 許容差の変更並びに呼び径800~2000K形管
	JDPA G 1029  「推進工法用ダクタイル鋳鉄管」   改正	に農D種管(DD)を追加した。 植込みボルトタイプ及び中間管種(1.5種管、2.5種管、3.5種 管、4.5種管)を削除し、平成11年の規格を改正した。

年 次	規 格	関 連 事 項
2004年 (平成16年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管」 改正	呼び径300~450を追加、管の継手性能を規定、軽量T頭ボルト・ナットを追加、JWWA G 113・114の改正に伴う整合などで、平成15年の規格を改正した。
	JDPA G 1043 「ダクタイル鋳鉄製 FT形水管橋」改正 JDPA G 1045	FT形管とNS形管を組合せた水管橋の採用が増加したことから、FT-NS形水管橋を追加するなどで、平成13年の規格を改正した。
	「農業用水用(低圧用) KL形ダクタイル鋳鉄管」制定	大口径の需要動向の変化に伴い、管の設計内圧を0.5MPa 以下とした低圧管路用のKL形管の規格を制定した。
	JDPA Z 2017  「ダクタイル鋳鉄管用   切管端面防食材料」制定   (日本水道協会規格)	防食ゴムによって直管の切管端面を防食する方法が開発されたことから、従来から行っている塗料による防食を含めて現地切管部の防食材料の規格を制定した。
	JWWA G 113         「水道用ダクタイル鋳鉄管」         一部改正         JWWA G 114         「水道用ダクタイル         鋳鉄異形管」一部改正	施工性を改善するために、NS形ゴム輪の物性の7.0MPa 荷重時の伸びを削除並びにNS形切管用挿し口リング(タ ッピンねじタイプ)の形状をR面取り形状からテーパ面取 り形状に変更し、平成16年の規格が一部改正された。
	JWWA K 158 「水道用ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」制定	JDPA Z 2005のダクタイル鋳鉄管用ポリエチレンスリーブが、日本水道協会の規格として制定された。
2005年(平成17年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1040 「ダクタイル鋳鉄管用ステンレス 鋼製ボルト・ナット(追補1)」 改正	ねじのJISの廃止に伴う移行JISへの置き換え、JWWA G 113・114の附属書1との整合を図って材料・試験方法を変 更並びにNS形軽量T頭ボルト・ナット、SII形及びFT形 T頭ボルト・もどり止めナット及びフランジ形両ねじボルト・ ナットを追加し、平成6年の規格を改正した。
	JDPA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽 (耐震用・緊急用)(追補1)」 改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準の変更、ねじのJISの廃止に伴う移行JISへの置き換え、JWWAG 113・114の附属書1との整合を図って材料及び試験方法を変更するなどで、平成13年の規格を改正した。
	JDPA G 1042  「NS形ダクタイル鋳鉄管」   改正	呼び径500~1000及び浅層埋設形フランジ付きT字管を追加し、平成16年の規格を改正した。
	JDPA G 1046 「PN形ダクタイル鋳鉄管」 制定	NS形管やS形管と同等の離脱防止力を有するパイプ・イン・パイプ工法用のPN形管が開発されたことから、規格を制定した。 なお、離脱防止力を確保するために、ロックリングは、管の外面から挿入する構造とした。
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示 (追補1)」改正 JDPA Z 2010 「ダクタイル鋳鉄管 合成樹脂塗装」改正	JWWA G 113・114の改正に伴う接合部品の表示の変更、JDPA G 1029・1042、Z 2017の制定、改正に伴う追加及び削除を行い、平成15年の規格を改正した。  厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準及び浸出試験方法の変更、エポキシ樹脂粉体塗料にJDPA Z 2016の組成を追加し、平成15年の規格を改正した。

年 次	規格	関 連 事 項
	(日本ダクタイル鉄管協会)  JDPA Z 2011  「ダクタイル鋳鉄異形管内面  液状エポキシ樹脂塗装」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準の変更並びに塗料の物性試験のJIS廃止に伴う移行JISへの置き換え、塗料の組成に環境調和型のビスフェノールFを追加などで、平成13年の規格を改正した。
	JDPA Z 2015 「ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング -シールコート」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準の変 更などを行い、平成14年の規格を改正した。
2005年 (平成17年)	JDPA Z 2016  「ダクタイル鋳鉄管内面   エポキシ樹脂粉体塗装」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準の変 更などを行い、平成15年の規格を改正した。
	JDPA G 1032 「フランジ形ダクタイル 鋳鉄直管」廃止	昭和59年の規格を廃止した。
	JDPA G 1037 「呼び径50 T形ダクタイル 鋳鉄管」廃止	平成13年の規格を廃止した。
	JDPA G 1039 「ボール式ダクタイル鋳鉄 可とう管ユニット」廃止	平成5年の規格を廃止した。
	(日本工業規格)  JIS G 5528  「ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ 樹脂粉体塗装(追補1)」	溶解試験に用いる石綿付金網を削除し、昭和59年の規格が 改正された。
	改正 JIS K 6353 「水道用ゴム(追補1)」改正	関連JISの改正に伴い、整合を図って平成9年の規格が改正 された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1030 「ダクタイル鋳鉄管」改正	管及び異種継手管の種類の追加及び削除、並びに利用者の 便を図ってJDPA G 1031との分冊を行い、平成12年の規 格を改正した。
	JDPA G 1031 「ダクタイル鋳鉄異形管」改正	管の種類の見直し並びに利用者の便を図ってJDPA G 1030との分冊を行い、平成12年の規格を改正した。
2006年(平成18年)		継手部の寸法を主要寸法に限定すると共に継手性能の規定を強化、呼び径500~1000の施工性の向上を図って接合部品を変更、JWWA G 113・114の一部改正との整合を行い、平成17年の規格を改正した。
	JDPA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管」 改正	《主な内容》 継手部の寸法をJIS G 5526・5527に準じて主要寸法に 限定、継手性能の規定を強化、呼び径75~250×45°・22½° 両受曲管を追加、呼び径500~1000ライナ固定用部品を心 出し用ゴムから樹脂ボルトに変更、バックアップリングの 材質、形状、寸法を変更、一部改正されたJWWA G 113・ 114との整合を図った。
	JDPA G 1047 「NS形防食ゴム付き 切管用挿し口リング」制定 JDPA Z 2017 「ダクタイル鋳鉄管用 切管端面防食材料」改正	内面エポキシ樹脂粉体塗装のNS形管の切管部に挿し口突部を 形成すると共に露出した鉄部を防食するための防食ゴム付き切 管用挿し口リングが開発されたことから、規格を制定した。 呼び径75~250 NS形防食ゴム[タッピンねじタイプ(粉体 管用)] は、JDPA G 1047として新たに制定したことから 削除し、平成16年の規格を改正した。

年 次	規 格	関連事項
	(日本工業規格) JIS G 5502	衝撃試験の試験片をVノッチ試験片に置き換えなどで、平成13年の規格が改正された。
	「球状黒鉛鋳鉄品(追補1)」改正 (日本水道協会規格) JWWA K 135 「水道用液状エポキシ樹脂塗料塗 装方法」一部改正	適用範囲、物性試験方法の変更、JWWA K 157との整合などで、平成16年の規格が改正された。 (主な内容) 適用範囲…水道施設用とし、鋼製又はダクタイル鋳鉄製の震災対策貯水槽を追加、鋼製水槽が削除された。 塗料の組成…使用するすべての原材料が規定された。 浸出項目…ホルムアルデヒド、トルエン及びキシレンが追加された。 塗料の試験方法…JIS K 5400からJIS K 5600規格群に変更された。
2007年 (平成19年)	<ul><li>(日本ダクタイル鉄管協会規格)</li><li>JDPA G 1033</li><li>「PⅡ形ダクタイル鋳鉄管」</li><li>改正</li></ul>	継手部の寸法を主要寸法に限定すると共に継手性能の規定を追加、溶接リング、フランジ・リブ付き管を追加、PI 形管を削除するなどで、平成13年の規格を改正した。
	JDPA G 1046 「PN形ダクタイル鋳鉄管」 改正	継手寸法を主要寸法に限定すると共に継手性能の規定を強 化するなどで、平成17年の規格を改正した。
	JDPA G 1048 「US形ダクタイル鋳鉄管 (LS方式)」制定	US形管に新たにLS方式が開発、実用化されたことから 規格を制定した。
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」 改正	JDPA G 1047の制定、JWWA G 114、K 156、JSWAS G-2、 JDPA G 1042・1046の改正及びJDPA G 1032・1037・1039 の廃止に伴う見直しなどで、平成17年の規格を改正した。
	JDPA Z 2010 「ダクタイル鋳鉄管 合成樹脂塗料」改正	塗膜の養生の規定を追加、異形管の外面への亜鉛系プライマの適用を追加するなどで、平成17年の規格を改正した。
	JDPA Z 2015  「ダクタイル鋳鉄管   モルタルライニング   - シールコート」改正	浸出性の項目に水質管理目標設定項目及び要検討項目の追加、塗膜の評価の適用時期を明確にするなどで、平成17年の規格を改正した。
2008年 (平成20年)	(日本水道協会規格)	厚生労働省令との整合、浸出性及び浸出試験方法を規定するなどで、平成4年の規格が改正された。 〈主な内容〉
	JWWA K 139 「水道用ダクタイル鋳鉄管合成 樹脂塗料」改正	適用範囲…ダクタイル鋳鉄異形管の内面への適用が削除された。
	JWWA K 157 「水道用無溶剤形エポキシ樹脂 塗料塗装方法」改正	適用範囲を変更するなどで、平成16年の規格が改正された。 <b>〈主な内容〉</b> 適用範囲…水道施設用とし、ダクタイル鋳鉄管、鋼製水槽、 鋼製又はダクタイル鋳鉄製の震災対策貯水槽が 追加された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1029 「推進工法用ダクタイル鋳鉄管」 改正	原管にUS形ダクタイル鋳鉄管(LS方式)、外装コンクリートに不織布を巻いて塗料を含浸してもよいことを追加し、平成16年の規格を改正した。

年 次	規 格	関連事項
2008年 (平成20年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1041  「ダクタイル鋳鉄製貯水槽(耐震用・緊急用)」改正	UF形及びLUF形の継手部の寸法を主要寸法に限定すると共に継手性能の規定を追加、集中I型及び集中Ⅱ型貯水槽の槽内流入管・槽内流出管に用いる硬質ポリ塩化ビニル管の材質規格を見直すなどで、平成17年の規格を改正した。
	JDPA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管 (追補1)」改正 JDPA Z 2005	呼び径75〜250の施工性の向上を図って、新たな形状のゴム輪を追加するなどで、平成18年の規格を改正した。
	「ダクタイル鋳鉄管用ポリエチレ ンスリーブ」廃止	平成13年の規格がJWWA規格となり、廃止した。
	(日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴム(追補2)」改正	引用規格の改正に伴い、平成18年の規格が改正された。
	(日本水道協会規格)	厚生労働省令が一部改正されたことに伴い、平成16年の規格が一部改正された。 〈主な内容〉
	JWWA K 156 「水道施設用ゴム材料」一部改正	1,1-ジクロロエチレンが削除され、シス-1,2-ジクロロエ チレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレンとして規定さ れた。
2009年	(日本ダクタイル鉄管協会規格)	日本水道協会検査への対応、接合部品及び塗装の表示を追加し、平成19年の規格を改正した。 〈主な内容〉
(平成21年)	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示 (追補1)」改正	検査証印…日本水道協会の検査前表示を規定した。 接合部品…NS形ゴム輪(タイプⅡ)、US形(LS方式)の ロックリング絞り用ゴムの表示を追加した。 塗装…無溶剤形エポキシ樹脂塗装の表示を追加した。
	JDPA Z 2010 「ダクタイル鋳鉄管 合成樹脂塗料」改正	JWWA K 139との整合を図り、塗料の組成、品質、試験 方法を見直すなどで、平成19年の規格を改正した。
	JDPA Z 2011 「ダクタイル鋳鉄異形管内面 液状エポキシ樹脂塗装」改正	JWWA K 135との整合、JWWA K 157の無溶剤形エポキ シ樹脂塗料を追加するなどで、平成17年の規格を改正した。
	JDPA G 1045 「農業用水用(低圧用)KL形ダク タイル鋳鉄管」廃止	平成16年の規格を廃止した。
	(日本工業規格)	
2010年 (平成22年)	JIS K 6353 「水道用ゴム(追補3)」改正	浸出項目及び基準を変更し、平成21年の規格が改正された。
	(日本水道協会規格)	水道用塗料規格との整合を図り、平成16年の規格が改正された。 〈主な内容〉
	JWWA A 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング」改正	浸出試験…シールコートを塗装したモルタルライニングの 浸出性及び浸出試験が規定された。 浸出項目…トルエン、キシレン、pH増加量が規定された。 混和材料…配合比率が規定された。

年 次	規 格	関 連 事 項
		継手の性能規定化、管種の見直し、水道用塗料規格との整
	(日本水道協会規格)	合などで、平成17年の規格が改正された。
		(主な内容)
	JWWA G 113	性能規定化…継手性能が規定された。
	「水道用ダクタイル鋳鉄管」	管 種…US形管(LS方式)、呼び径300~450のNS形 管、呼び径75~250のNS形ゴム輪(タイプⅡ)
	改正	<b>1 またい性75~25007N S 形コム幅(タイノエ)</b> を追加、P I 形管、呼び径75~250のS II 形、呼
		び径700のU・UF・US形管及び呼び径700以
		上のRF形-RF形フランジの異形管が削除さ
		れた。
		浸出試験…エポキシ樹脂粉体塗装品と無溶剤形エポキシ樹
	JWWA G 114  「水道用ダクタイル	脂塗装品については、コンディショニングしな
		いことが規定された。
	购买杂万百]	内面塗装…内面塗装からJWWA K 139の合成樹脂塗装が 削除された。また、ダクタイル鋳鉄異形管の内
		面塗装としてJWWA K 157の無溶剤形エポキ
		シ樹脂塗装が追加された。
		厚生労働省令が一部改正されたことに伴い、平成21年の規
	JWWA K 156	格が一部改正された。
	JWWA K 130  「水道施設用ゴム材料」一部改正	〈主な内容〉
		1,1,2-トリクロロエタンが削除され、カドミウム及びその
	 	化合物の基準値が変更された。
	JWWA K 157   「水道用無溶剤形エポキシ樹脂	適用範囲に水道施設用のバルブ類を追加、現場溶接部の手 塗り塗装について規定するなどで、平成20年の規格が改正
		された。
	IWWA Z 101	- 5- 3-3-3-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5
2010年	「水道用ダクタイル鋳鉄管類の表	定されており、表示の詳細は実態としてJDPA Z 2004に
(平成22年)	示方法」廃止	よって運用されているため、昭和57年の規格が廃止された。
		JIS改正に伴い、管の硬さの単位の変更、管種の見直しな
	(日本下水道協会規格)	どで、平成16年の規格が改正された。
		〈主な内容〉   管の硬さの単位…HBからHBWに変更された。
	JSWAS G-1	管種…呼び径300~450 NS形管、US形管(LS方式) の
	「下水道用ダクタイル鋳鉄管」	追加、呼び径75~250 S I 形管、呼び径700 のU形
	改正	管、UF形管、US形管(内面継手管)、GS形管が
		削除された。
		推進機械の進歩や曲線推進の増加に伴い、管種の見直しな
	JSWAS G-2	とで、平成11年の規格が改正された。
	「下水道推進工法用ダクタイル   鋳鉄管」	〈 <b>主な内容〉</b>   管種…従来のⅠ類の植込みボルトタイプの推進管及びⅡ類
		のGS形及びGSS形推進管が削除された。
		外装コンクリート…不織布巻きが追加された。
		JSWAS G-2との整合などで、平成20年の規格を改正し
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)	た。
		(主な内容)
	JDPA G 1029	外装コンクリート…表示の成形年月日を成形年月に変更し
	「推進工法用ダクタイル鋳鉄管 (追補1)」改正	た。また、外装コンクリートの圧縮強 度検査の頻度を1日ごとから一定期間
	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	一
	JDPA G 1041	〈主な内容〉
	「ダクタイル鋳鉄製貯水槽(耐震用・ 緊急用) (追補1)」改正	内面塗装…帽及び栓の内面塗装に無溶剤形エポキシ樹脂塗
	赤心用/ (旭州I/) 以止	装及びエポキシ樹脂粉体塗装を追加した。

年 次	規 格	関 連 事 項
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1049  「G X 形ダクタイル鋳鉄管」制定	耐地盤変動用の管として、NS形管と同等の性能を有し、施工性の向上及び長寿命化を図り、さらに経済的な対応ができるGX形ダクタイル鋳鉄管を開発、実用化したことから制定した。 (主な内容) 呼び径…75~250 性能…伸縮量:管長の±1%、 離脱防止力:3D kN(Dは呼び径mm)、 許容屈曲角度:4° 外面塗装…外面耐食塗装
2010年 (平成22年)	JDPA Z 2002 「ダクタイル管継手用滑剤」改正	一部改正された厚生労働省令との整合、試験方法規格の変 更などで、平成12年の規格を改正した。 〈主な内容〉 試験方法規格…JIS K 5400からJIS K 5600規格群に変 更した。
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示 (追補2)」改正	異形管の表示の追加、JDPA G 1029及びJSWAS G-2との整合を図るなどで、平成21年の規格を改正した。 (主な内容) 異形管の表示…呼び径75~250×45°NS形両受曲管への片側表示を追加した。 外装コンクリート…成形年月日を成形年月に変更した。
	JDPA Z 2004-2 「G X 形ダクタイル鋳鉄管の表示」 制定	JDPA G 1049のGX形ダクタイル鋳鉄管に行う表示を規定して制定した。
	(日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴム(追補4)」改正	浸出項目及び基準の変更で、平成22年の規格が改正された。
2011年 (平成23年)	(日本水道協会規格)  JWWA K 156  「水道施設用ゴム材料」一部改正  (日本ダクタイル鉄管協会規格)	厚生労働省令が一部改正されたことに伴い、平成22年の規格が一部改正された。 〈主な内容〉 トリクロロエチレンの基準値が変更された。
	JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル鋳鉄管」 改正	JWWA G 113・114との整合などで、平成16年の規格を 改正した。
	JDPA G 1030 「ダクタイル鋳鉄管」改正	管種の見直しなどで、平成18年の規格を改正した。 <b>〈主な内容〉</b> 管種…呼び径1350・1600~2600のUF形直管及び挿し口が UF形の異種継手管の1種管を追加した。また、S II形異種継手管を削除した。
	JDPA G 1031 「ダクタイル鋳鉄異形管」改正	管種の見直しなどで、平成18年の規格を改正した。 〈主な内容〉 管種…呼び径75~350のNS形異形管を追加した。また、 RF形-RF形フランジの呼び径700~1500の異形 管を削除した。

年 次	規 格	関 連 事 項
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1040  「ダクタイル鋳鉄管用ステンレス 鋼製ボルト・ナット」改正	ボルト・ナットの追加、削除などで、平成17年の規格を改正した。 <b>〈主な内容〉</b> 追加…SUS316系ボルト・ナットを追加した。 削除…JWWA G 113・114及びJSWAS G-1に規定されたSUS304系ボルト・ナットを削除した。また、採用実績がなくなったSUS403のボルト・ナットを削除した。
	JDPA G 1043 「ダクタイル鋳鉄製FT形水管橋」 改正	FT-SⅡ形水管橋を削除、FT形T頭ボルト・もどり止めナットに焼き付き防止処理の品質を規定するなどで、平成16年の規格を改正した。
	JDPA G 1049   「G X 形 ダ ク タ イ ル 鋳 鉄 管   (追補1)」 改 正	ソフトシール仕切弁を追加、ロックリングホルダの物性値 を変更し、平成22年の規格を改正した。
	JDPA G 1050 「US形切管用挿し口リング」 制定	施工現場で切管したダクタイル鋳鉄管の挿し口にUS形突部を形成することができる切管用挿し口リングを開発、実用化したことから制定した。 (主な内容) 呼び径…呼び径800~1800 離脱防止力…3D kN(Dは呼び径mm)以上
2011年(平成23年)	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示 (追補3)」改正	接合部品の追加、接合形式及び材質表記を見直すなどで、 平成22年の規格を改正した。 (主な内容) 接合部品…US形切管用挿しロリング及びGX形切管端面 防食ゴムを追加した。 接合形式…接合部品 I 類、接合部品II類、接合部品IV類の 接合形式を見直した。 材質表記…ステンレス製品の材質表記を見直した。 表示方法…呼び径400及び450のNS形及びS II 形押輪に平 面表示を追加した。
	JDPA Z 2004-2 「G X 形ダクタイル鋳鉄管の表示 (追補1)」改正 JDPA Z 2009 「ダクタイル鋳鉄管外面特殊塗装」	G X 形管及び呼び径300以上のN S 形管を適用範囲に追加、 種類C C 及び種類 D D の3次塗装にエポキシ樹脂塗料を追
	改正   JDPA Z 2017   「ダクタイル鋳鉄管用   切管端面防食材料」改正	加し、平成14年の規格を改正した。 切管端面に用いる防食ゴムの追加、削除などで、平成18年 の規格を改正した。 <b>〈主な内容〉</b> 追加…エポキシ樹脂粉体塗装管の切管端面に用いる呼び径 75~250のGX形防食ゴムを開発・実用化したこと から追加した。
		削除…採用実績のないモルタルライニング管の切管端面に 用いる呼び径75~250のNS形防食ゴム[タッピンね じタイプ]を削除した。
2012年 (平成24年)	(日本水道協会規格)  JWWA Z 108  「水道用資機材の浸出試験方法」 改正	関連省令及び告示の改正に伴い、浸出基準及び試験方法の整合を図って、平成16年の規格が改正された。
		(社)日本下水道協会が(公社)日本下水道協会に移行された。

———— 年 次	規 格	関連事項
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)	N C 7 X
2012年 (平成24年)	JDPA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管 (追補2)」改正 JDPA G 1051 「PN形ダクタイル鋳鉄管 (CP方式)」制定	呼び径500~1000の施工性の向上を図ってゴム輪の物性、 形状及び寸法を見直し、平成20年の規格を改正した。 既設管内に持ち込んで接合する方式[CP方式(Carrying pipe method)]の呼び径700~1500のPN形ダクタイル鋳 鉄管を開発、実用化したことから制定した。
	JDPA Z 2004-2 「G X 形ダクタイル鋳鉄管の表示 (追補2)」改正	G X 形異形管及び接合部品の表示を見直し、平成23年の規格を改正した。
	_	日本ダクタイル鉄管協会が(一社)日本ダクタイル鉄管協会として登記した。
	(日本水道協会規格) JWWA G 120 「水道用G X形ダクタイル鋳鉄管」 制定 JWWA G 121	平成23年のJDPA G 1049のGX形ダクタイル鋳鉄管が日本水道協会の規格として制定された。 <b>〈主な内容〉</b> 呼び径…75~250 性能…伸縮量:管長の±1%、 離脱防止力:3D kN(Dは呼び径mm)、
	「水道用GX形ダクタイル鋳鉄異 形管」制定	許容屈曲角度: 4° 外面塗装…耐食亜鉛系塗装
	JWWA K 157 「水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗 料塗装方法」改正	水道用鋼管の長寿命化に応えるための厚塗り塗装、その塗料の試験方法、塗装方法、塗装の検査方法などを規定し、 平成22年の規格が改正された。
	JWWA Z 110 「水道用資機材 – 浸出液の分析方法」改正	関連省令及び告示の改正に伴い、浸出基準及び試験方法の 整合を図って、平成16年の規格が改正された。
	_	(社)日本水道協会が(公社)日本水道協会に移行された。
2013年 (平成25年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1040  「ダクタイル鋳鉄管用ステンレス 鋼製ボルト・ナット」改正	材料及びボルト・ナットの追加、関連規格との整合などで、 平成23年の規格を改正した。 <b>〈主な内容〉</b> 追加…SUS304系にSUS304N1及びSUS304N2並びにSUS316 系にSUS329J3L及びSUS329J4Lを追加した。また、 SUS316系にGX形T頭ボルト・ナットを追加した。 整合…JWWA G 120・121及びJDPA G 1049の附属書 Aとの整合を図った。
	JDPA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽(耐震 用・緊急用)」改正	配水管及び流入・流出連絡管にGX形管を追加、JWWA G 113・114との整合を図って、平成22年の規格を改正した。
	JDPA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管」改正	関連規格との整合、異形管の追加、接合部品の削除などで、 平成24年の規格を改正した。 〈主な内容〉 整合…JWWA G 113・114・120・121との整合を図った。 追加…呼び径500~1000の異形管を追加した。また、呼び 径500~1000のバックアップリングの加工方法に射 出成形を追加した。 削除…採用実績のなくなった呼び径75~250のタイプ I の ゴム輪を削除した。
	JDPA G 1043 「ダクタイル鋳鉄製水管橋」改正	G X 形水管橋を追加、"F T 形水管橋"の名称を"N S 形水管橋"に変更、規格名称を"ダクタイル鋳鉄製水管橋"に変更して、平成23年の規格を改正した。

年 次	規格	関 連 事 項
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1049  「G X 形ダクタイル鋳鉄管」改正	呼び径300のGX形ダクタイル鋳鉄管及びソフトシール仕切弁を開発、実用化したことから追加、JWWA G 120・ 121との整合を図って、平成23年の規格を改正した。
2013年 (平成25年)	JDPA G 1052 「S50形ダクタイル鋳鉄管」制定 JDPA Z 2004-2	耐地盤変動用の管として、G X 形管、N S 形管と同等の性能を有し、施工性の向上及び長寿命化を図り、さらに経済的な対応ができるS 5 0 形ダクタイル鋳鉄管を開発、実用化したことから制定した。 (主な内容)呼び径…50性能…伸縮量:管長の±1%、離脱防止力:3D kN(Dは呼び径mm)、許容屈曲角度:4°外面塗装…外面耐食塗装呼び径300 G X 形直管、異形管、バルブ及び接合部品の表
	「GX形ダクタイル鋳鉄管の表示」 改正	示を追加、並びにポリエチレンの材質の記号を追加して、 平成24年の規格を改正した。
	JDPA Z 2004-3 「S50形ダクタイル鋳鉄管の表示」 制定	JDPA G 1052のS50形ダクタイル鋳鉄管に行う表示を規定して制定した。
	JDPA Z 2017 「ダクタイル鋳鉄管用 切管端面防食材料」改正	施工性及び防食性に優れたGX形防食キャップを開発、実用化したことから追加、防食ゴムの名称を変更し、平成23年の規格を改正した。 <b>〈主な内容〉</b> 防食キャップ…呼び径75~250 GX形防食キャップを追加した。 防食ゴム…K·T·SI形防食ゴムの名称をK·T形防食ゴムに変更した。
	(日本工業規格)  JIS A 5314  「ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング」改正	対応国際規格のISO4179との整合並びに試験及び検査の 項目が規定され、平成10年の規格が改正された。 〈主な項目〉 厚さ…平均最小厚さが削除された。また、一点最小厚さが 下の許容差で表記された。 段差…ライニングの段差の規定が追加された。 細骨材の粒度分布…削除された。 セメントと細骨材との質量配合比…上限のみの規定に見直 された。
2014年(平成26年)	JIS G 5526 「ダクタイル鋳鉄管」改正	対応国際規格のISO2531との整合並びに試験及び検査の 項目が規定され、平成10年の規格が改正された。 〈主な項目〉 管厚…S種管を追加、中間管種が削除された。 接合形式…NS形、PN形を追加、SI形、KF形、PI 形が削除された。また、US形にLS方式が追 加された。
	JIS G 5527 「ダクタイル鋳鉄異形管」改正	呼び径…S形の呼び径が1100以上及び内面継手の呼び径が800以上に変更された。 硬さの単位…HBからHBWに変更された。 直管の有効長…上の許容差が+30mmから+70mmに変更された。 寸法の検査頻度…全数から製造業者の品質マネジメントシステムによる頻度に変更された。

年 次	規格	関 連 事 項
	(日本工業規格)  JIS G 5528 「ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ 樹脂粉体塗装」改正	試験方法規格の廃止・制定に伴って試験方法を見直し、平成18年の規格が改正された。 (主な内容) 試験方法…JIS K 5400からJIS K 5600規格群に変更された。 溶解試験…削除された。 管の塗装の付着性…削除された。 塗装及び塗膜の試験範囲…表記方法が変更された。
	(日本水道協会規格)  JWWA K 156  「水道施設用ゴム材料」一部改正	厚生労働省令の一部改正されたことに伴い、資機材及び給水装置の浸出基準に亜硝酸体窒素を追加、省令の直接引用に変更するなどで、平成23年の規格が一部改正された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1042  「NS形ダクタイル鋳鉄管 (追補1)」改正	射出成型によって製造する呼び径500~1000のNS形バックアップリングの注入ゲート部に凹部を設ける場合を追加し、平成25年の規格を改正した。
	JDPA G 1043 「ダクタイル鋳鉄製水管橋」改正	GX形水管橋に呼び径300を追加、FGX形両挿しフランジ付きT字管及びテーパリングの寸法を見直し、平成25年の規格を改正した。
2014年	JDPA G 1049 「GX形ダクタイル鋳鉄管」改正	呼び径400のGX形ダクタイル鋳鉄管及びソフトシール 仕切弁が開発、実用化されたことから追加、JWWA G 120・121及びJWWA B 120との整合を図って、平成25 年の規格を改正した。
(平成26年)	JDPA G 1051 「PN形ダクタイル鋳鉄管 (JP方式及びCP方式)」改正	CP方式と同様に継手に抜け出し力が働いた場合にロックリングが管外面に絞られる構造のJP方式(Jacking pipe method)を開発、実用化したことから、平成24年の規格を改正した。 (主な内容) 呼び径…CP方式:呼び径700~1500
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」 改正	JP方式:呼び径300~1500 関連規格の制定・改正による適用管種、接合部品 I 類の接合形式、ゴム輪の捺印表示などを見直し、平成23年の規格を改正した。 (主な内容) 管種…PN形(CP方式)、FGX形、GX形水管橋用の管及び接合部品並びにGX形防食キャップの表示を追加した。また、SI形、KF形、PI形、呼び径500~1000 S形、呼び径700の内面継手を削除した。材質…T頭ボルトの材質表示にSUS304N1及びSUS304N2を追加した。 変更…呼び径500~1000 NS形切管用挿しロリング、US形ロックリング、US形及びU形割輪の接合形式の表示を変更した。ゴム輪の委託業者名の略号は捺印も可能とした。
	JDPA Z 2004-2 「G X 形ダクタイル鋳鉄管の表示」 改正	呼び径400のGX形管、バルブ及び接合部品を追加、ロックリング及びライナに識別表示を追加、P-Linkの挿し口部黄線を白線に変更して、平成25年の規格を改正した。

年 次	規 格	関 連 事 項
	(日本水道協会規格)  JWWA A 113  「水道用ダクタイル鋳鉄管  モルタルライニング」改正	平成26年のJIS A 5314との整合を図って、平成22年の規格が改正された。 〈主な内容〉 厚さ…平均最小厚さが削除された。また、一点最小厚さが下の許容差で表記された。 段差…ライニングの段差の規定が追加された。 セメントと細骨材との質量配合比…上限のみの規定に見直された。
	JWWA G 112 「水道用ダクタイル鋳鉄管 内面エポキシ樹脂粉体塗装」 改正	平成26年のJIS G 5528との整合を図るなどで、平成16年の規格が改正された。 〈主な項目〉 塗装及び塗膜の試験範囲…表記方法が変更された。 塗料の組成…酸化鉄及び黄色酸化鉄が追加された。 比重試験…供試体が塗膜から塗料に変更された。 浸出性…独立した箇条にし、その浸出性及び浸出試験方法 が附属書に規定された。
	JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	平成26年のJIS G 5526·5527との整合を図るなどで、平成22年の規格が改正された。 (主な内容) 管厚… S 種管が追加された。 管種…呼び径500~1000のNS形、PN形を追加、SII形、 KF形が削除された。また、S形の呼び径が1100以上に変更された。
2015年 (平成27年)	JWWA G 114 「水道用ダクタイル 鋳鉄異形管」改正	直管の有効長…上の許容差が+30mmから+70mmに変更 された。 寸法の検査頻度…全数から製造業者の定める頻度に変更さ れた。
	JWWA K 139 「水道用ダクタイル鋳鉄管合成樹 脂塗料」改正	塗料試験方法の見直しなどで、平成20年の規格が改正された。 (主な内容) 塗料の組成…JWWA K 135、JWWA K 157に規定され、 使用する可能性のある原料が追加された。 塗料の試験方法…耐湿性の試験に回転式が追加された。 塗料の浸出性…省令の直接引用に変更された。
	JWWA K 156 「水道施設用ゴム材料」改正	試験方法の引用JISの変更などで、平成26年の規格が改正された。 (主な内容) 促進老化試験…JIS K 6257の改正に伴い、加圧酸素加熱老化試験からAA-2 [強制循環形熱老化試験機(横風式)] に変更された。 浸出性…省令の直接引用に変更された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル鋳鉄管」 改正	JIS G 5526・5527との整合、直管の内面にJDPA G 1053の塗装を追加し、平成23年の規格を改正した。 (主な内容) 製造方法…項目を追加した。 水密性… "耐水圧性" に変更した。 直管の有効長…上の許容差を+30mmから+70mmに変更した。  寸法の検査頻度…全数から製造業者の定める頻度に変更した。 直管の内面塗装…JDPA G 1053のエポキシ樹脂粉体塗料に無機材料を混合した塗装を追加した。

年 次	規格	関 連 事 項
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1042-2  「NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)」 制定	JIS G 5526、JWWA G 113、JSWAS G-1、JDPA G 1042に規定されているNS形ダクタイル鋳鉄管と同等の性能を有し、経済性と軽量化を実現したE種管が開発、実用化したことから制定した。 (主な内容)呼び径…75、100 管厚…E種管(DE)を規定した。 内面塗装…エポキシ樹脂塗料に無機系材料を混合した塗装とした。
	JDPA G 1052 「S50形ダクタイル鋳鉄管」改正	JDPA G 1049及びJWWA G 120・121との整合を図って耐食亜鉛系塗装を追加、継手性能が同じで、形状、寸法が異なる抜け止め押輪を追加して、平成25年の規格を改正した。
2015年 (平成27年)	JDPA G 1053 「ALW形ダクタイル鋳鉄管」 制定	水道以外の低圧管路には、T形ダクタイル鋳鉄管をベースとして、より経済的な対応ができる呼び径300~400 ALW形ダクタイル鋳鉄管を開発、実用化したことから制定した。
	JDPA G 1053-2 「ALW形ダクタイル鋳鉄管」 制定	水道以外の低圧管路には、呼び径300~400 ALW形ダクタイル鋳鉄管が使用されているが、更に大きな呼び径のALW形ダクタイル鋳鉄管を開発、実用化したことから制定した。 〈主な内容〉
	JDPA Z 2004-3 「S50形ダクタイル鋳鉄管の表示」 改正	呼び径…300~600   JDPA G 1052に新たに追加された現行品と同等の継手性   能を有する抜け止め押輪の表示を規定して、平成25年の規   格を改正した。
	JDPA Z 2017 「ダクタイル鋳鉄管用 切管端面防食材料」改正	呼び径300 G X 形防食キャップを追加、エラストマーの物性の見直しなどで、平成25年の規格を改正した。
	(日本水道協会規格)  JWWA Z 108  「水道用資機材の浸出試験方法」  改正	関連厚生労働省令・告示・通知などの内容と整合を図って、 平成24年の規格が改正された。
	JWWA Z 110 「水道用資機材の浸出試験及び水 道用薬品の評価試験に係る分析方 法」改正	関連厚生労働省令・告示・通知などの内容と整合を図って、 平成25年の規格が改正された。
2016年 (平成28年)	(日本下水道協会規格)  JSWAS G-1  「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	管種の追加、JIS A 5314、G 5526・5527・5528との整合などで、平成22年の規格が改正された。 (主な内容) 管種…呼び径75~300、400 G X 形管、呼び径500~1000の N S 形管が追加、S II 形管、K F 形管、呼び径500~1000の S 形管が削除された。 直管の有効長…上の許容差を+30mmから+70mmに変更された。 モルタルライニング…平成26年のJIS A 5314との整合を図って見直された。 エポキシ樹脂粉体塗装…平成26年のJIS G 5528との整合を図って見直された。

年 次	規格	関 連 事 項
	(日本下水道協会規格)	JSWAS G-1との整合などで、平成22年の規格が改正された。 〈主な内容〉
	JSWAS G-2 「下水道推進工法用ダクタイル鋳 鉄管」 改正	推進管路…UF形推進管路が削除された。 管種…挿し口がKF形の先頭管及び受口がKF形の最後管 が削除され、NS形挿し口及び受口の先頭管及び最 後管に置き換えられた。また、U形及びUS形推進 管路の異種継手管が削除された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル鋳鉄管」 改正	平成27年の規格を改正した。 (主な内容) 直管の耐水圧性…代替方法として、気密性と耐圧性の組合 せを追加した。 直管の内面塗装…エポキシ樹脂塗料に無機系材料を混合し た塗装を追加した。  T形直管…呼び径300~600の受口外面の形状に破線の形状 を追加した。 曲管…呼び径300~600 K形両受曲管、呼び径600~1500 K 形曲管を追加した。
	JDPA G 1029 「推進工法用ダクタイル鋳鉄管」 改正	JSWAS G-2との整合を図って、平成22年の規格を改正した。 〈主な内容〉 推進管路…UF形推進管路を削除した。 管種…挿し口がKF形の先頭管及び受口がKF形の最後管 を削除し、NS形挿し口の先頭管及びNS形受口の 最後管に置き換えた。また、U形及びUS形推進管 路の異種継手管を削除した。
2016年 (平成28年)	JDPA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管」改正 JDPA G 1042-2	JIS G 5526・5527、JWWA G 113・114との整合、直管の耐水圧性の代替方法としての気密性と耐圧性の組合せを追加し、平成26年の規格を改正した。 NS形直管(E種管)と同様に経済性と軽量化を実現した呼
(,,,,,	N S 形 ダ ク タ イ ル 鋳 鉄 管   ( E 種 管 ) 」 改 正	NS形直管(E種管) と同様に程済性と軽重化を美現した時 び径75、100のNS形異形管(E種管)を開発、実用化したこ とから追加し、平成27年の規格を改正した。
	JDPA G 1042-2-1 「NS形ダクタイル鋳鉄管 (E種管)」制定	JDPA G 1042-2として呼び径75、100 NS形ダクタイル 鋳鉄管(E種管)が使用されているが、さらに大きい呼び径 のNS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)を開発、実用化したこ とから制定した。 (主な内容) 呼び径…150
	JDPA G 1042-3 「NS形ダクタイル鋳鉄管 (Gタイプ)」制定	JDPA G 1042-2の呼び径75~150のNS形ダクタイル鋳 鉄管(E種管)が下水道施設で使用されているが、さらに大 きな呼び径のNS形ダクタイル鋳鉄管(Gタイプ)を開発、 実用化したことから制定した。 〈主な内容〉 呼び径…200・250
	JDPA G 1051 「PN形ダクタイル鋳鉄管 (JP方式及びCP方式)」改正	JIS G 5526・5527、JWWA G 113・114との整合、J P 方式の施工性の向上を図るためにロックリングの材質を変更、内面塗装を追加、直管の耐水圧性の代替方法を追加するなどで、平成26年の規格を改正した。 (主な内容) ロックリング…呼び径300~600の J P 方式の材質をFCD600 -3に変更した。 内面塗装…エポキシ樹脂粉体塗料に無機材料を混合した塗装を追加した。 直管の耐水圧性…代替方法として気密性及び耐圧性の組合せを追加した。

年 次	規 格	関 連 事 項
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA G 1053  「ALW形ダクタイル鋳鉄管」 改正	水道以外の低圧管路には、呼び径300~400のJDPA G 1053及び呼び径450~600のJDPA G 1053-2が使用されているが、更に大きな呼び径のALW形ダクタイル鋳鉄管を開発、実用化したことから追加、JDPA G 1053-2を統合し、平成27年の規格を改正した。 <b>〈主な内容〉</b> 呼び径…300~800
2016年 (平成28年)	JDPA Z 2004-4 「NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)の表示」制定	JDPA G 1042-2のNS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)に行う表示を規定して制定した。
	JDPA Z 2004-4-1 「NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)の表示」制定	JDPA G 1042-2-1のNS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)に 行う表示を規定して制定した。
	JDPA G 1053-2 「ALW形ダクタイル鋳鉄管」 廃止	JDPA G 1053に統合したことから平成27年の規格を廃止 した。
2017年(平成29年)	(日本水道協会規格)  JWWA A 113  「水道用ダクタイル鋳鉄管  モルタルライニング」一部改正	シールコートの組成追加に伴う一部の材料について、浸出 試験の妥当性が確認されたため、平成27年の規格が一部改 正された。 (主な内容) 溶剤の組成…ジプロピレングリコールモノメチルエーテ ル、2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオー ルモノイソブチレート、ナフテン系炭化水素 (C9~C10)が追加された。
	JWWA G 112 「水道用ダクタイル鋳鉄管 内面エポキシ樹脂粉体塗装」 改正	直管の塗装で生じたピンホール、軽微なきず、くぼみなど の補修について、規格制定時に手直しとして規定されてい たリコートを改めて追加し、平成27年の規格が改正された。
	JWWA G 120 「水道用G X 形ダクタイル鋳鉄管」 改正 JWWA G 121 「水道用G X 形ダクタイル鋳鉄異 形管」改正	呼び径300及び400を追加、JWWA G 113・114との整合を 図って直管の有効長の上の許容差を+30mmから+70mm に変更するなどで、平成25年の規格が改正された。
	JWWA K 139 「水道用ダクタイル鋳鉄管合成樹 脂塗料」一部改正	塗料の組成追加に伴う一部の材料について、浸出試験の妥当性が確認されたため、平成27年の規格が一部改正された。 〈主な内容〉 溶剤の組成…ジプロピレングリコールモノメチルエーテル、2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールモノイソブチレート、ナフテン系炭化水素(C9~C10)が追加された。
	JWWA K 158 「水道用ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」改正	スリーブ本体の品質向上を図るなどで、平成17年の規格が 改正された。 〈主な内容〉 品質…酸化誘導時間が規定された。 メルトマスフローレイト…引用JISが変更された。 スリーブの検査頻度…規定された。 締め具の試験方法…引用JISが見直された。

年 次	規 格	関 連 事 項
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)	
	JDPA A 3000 「ダクタイル鋳鉄管、異形管及び 接合部品 —共通仕様—」制定	ダクタイル鋳鉄管、ダクタイル鋳鉄異形管及び接合部品の 品質を規定して制定した。
	JDPA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽(耐震 用・緊急用)」改正	採用実績がなくなった貯水槽の構成部品のUF形直管及び 異形管並びに帽及び栓の内面モルタルライニングを削除な どで、平成25年の規格を改正した。
	JDPA G 1042-2 「NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)」改正	NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)ロングを実用化したことから追加、ゴム輪(異形管用)(E種管)の物性の見直し、JDPAG1042-2-1を統合し、平成28年の規格を改正した。 <b>〈主な内容〉</b> 呼び径:75~150 ただし、ロングは呼び径100 物性:ゴム輪(異形管用)(E種管)の圧縮永久ひずみをプッシュオン継手と同じに見直した。
2017年	JDPA G 1046 「PN形ダクタイル鋳鉄管」改正	JDPA G 1051を統合すると共に継手構造を変更、耐水圧性の代替方法を追加などで、平成19年の規格を改正した。 (主な内容) 直管の耐水圧性の代替方法…気密性及び耐圧性の組合せを 追加した。 継手構造…受口に設けた長穴からのロックリング挿入をな くし、受口溝とロックリングにテーパを設けて、 継手に抜け出し力が働いた場合にロックリング が管外面に絞られる構造に変更した。
(平成29年)	JDPA G 1053 「ALW形ダクタイル鋳鉄管」 改正	水道以外の低圧管路には、呼び径300~800が使用されているが、更に大きな呼び径のALW形ダクタイル鋳鉄管を開発、実用化したことから追加し、平成28年の規格を改正した。 <b>〈主な内容〉</b> 呼び径…300~1500 内面塗装…液状エポキシ樹脂塗料に無機系材料を混合した 塗装を追加した。
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」改 正	JDPA Z 2004-2、JDPA Z 2004-3、JDPA Z 2004-4、 JDPA Z 1042-4-1を統合し、平成26年の規格を改正した。
	JDPA G 1042-2-1 「NS形ダクタイル鋳鉄管 (E種管)」廃止	JDPA G 1042-2に統合したことから平成28年の規格を廃止した。
	JDPA G 1048 「US形ダクタイル鋳鉄管(LS方式)」廃止 JDPA G 1050 「US形切管用挿し口リング」 廃止	JIS G 5527、JWWA G 113・114、JSWAS G-1となり、 JDPA G 1048は平成19年、JDPA G 1050は平成23年の 規格を廃止した。
	JDPA G 1051 「PN形ダクタイル鋳鉄管(JP方 式及びCP方式)」廃止	JDPA G 1046に統合したことから平成28年の規格を廃止 した。

年 次	規 格	関連事項
2017年 (平成29年)	JDPA Z 2004-2 「G X形ダクタイル鋳鉄管の表示」廃止 JDPA Z 2004-3 「S 5 0 形ダクタイル鋳鉄管の表示」廃止 JDPA Z 2004-4 「N S 形ダクタイル鋳鉄管(E 種管)の表示」廃止 JDPA Z 2004-4-1 「N S 形ダクタイル鋳鉄管(E 種管)の表示」廃止	JDPA Z 2004に統合したことから、JDPA Z 2004-2は 平成26年、JDPA Z 2004-3は平成27年、JDPA Z 2004-4 及びJDPA Z 2004-4-1は平成28年の規格を廃止した。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)  JDPA A 3000 「ダクタイル鋳鉄管、異形管及び接合部品 ―共通仕様―」改正  JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル鋳鉄管」 改正	JDPA G 1049との整合を図って、呼び径75~250の直管 用及びP‐Link用GX形ゴム輪を変更し、平成29年の 規格を改正した。  JDPA G 1053との整合を図って直管内面のエポキシ樹脂 塗料に無機系材料を混合した塗装の品質、試験及び検査を変更し、平成28年の規格を改正した。 (主な内容)  品質 試験 検査 使用上有害なひび 5%のたわ 新たに製造を開始する初回、 み試験 及び品質変更の都度 塗装表面に使用上 目視による 全数
2018年 (平成30年)	JDPA G 1049 「G X 形ダクタイル鋳鉄管」 改正	JIS及びJWWA規格との整合、直管の耐水圧性の代替方法を追加、新形状及び寸法のG-Linkを追加、呼び径75~250の直管用及びP-Link用ゴム輪を変更し、平成26年の規格を改正した。 (主な内容) 直管の耐水圧性の代替方法…気密性及び耐圧性の組合せを追加した。 G-Link…新形状及び寸法のG-Linkを追加した。 呼び径75~250のゴム輪(直管用、P-Link用) …施工性の向上を図って物性、形状及び寸法を変更した。
	内面継手の耐地盤変動用のUS形ダクタイル鋳鉄管につて、ゴム輪を押輪で受口内面の所定の位置に挿入した役ゴム輪と押輪の位置を保持するためにスペーサを挿入す革新的な方式(Revolutionary method)〕のUS形ダクタル鋳鉄管(R方式)を開発、実用化したことから制定した(主な内容)呼び径・2400・2600呼び径の種類・・呼び径区分Aと呼び径区分Bの2種類区分A:JIS、JWWA規格と同じ外径(D2)寸法ので区分B:呼び径と同じ外径(D2)寸法の管直管の種類・・直管、角度付き直管(呼び径2400:1~5°、び径2600:1~3°で1°刻み)異形管の種類・・曲管(11 ¼°、8°、5 5/8°、3°)、継ぎ輪、ア継ぎ輪、変換継ぎ輪(呼び径A-LS式)、変換継ぎ輪(呼び径A-LS式)、変換継ぎ輪(呼び径A-Fび径B)	

年 次	規格	関 連 事 項
	(日本ダクタイル鉄管協会規格)	
	JDPA G 1049 「GX形ダクタイル鋳鉄管」 改正	呼び径350の直管、異形管及びバルブを追加、呼び径75~250の直管の挿し口突部の形状を見直し、挿し口側の形状を規定しないことなどで、平成30年の規格を改正した。
2019年 (平成31年)	JDPA G 3002-2 「US形ダクタイル鋳鉄管(R方式)」改正	呼び径1500~2200のUS形ダクタイル鋳鉄管(R方式)を開発、実用化したことから、平成30年の規格を改正した。 <b>〈主な内容〉</b> 呼び径…1500~2600 呼び径の種類…呼び径区分Aと呼び径区分Bの2種類 直管の種類…直管、角度付き直管(呼び径1500~2400:1~ 5°、呼び径2600:1~3°で1°刻み) 異形管の種類…平成30年と同じ。

## 5. 鋳鉄管類の規格目録

鋳鉄管類の規格目録(平成31年3月)を下表に示します。

#### 日本工業規格(J I S)目録

規格番号	規 格 名 称
JIS A 5314-2014	ダクタイル鋳鉄管モルタルライニング
JIS G 5502-2007	球状黒鉛鋳鉄品
JIS G 5526-2014	ダクタイル鋳鉄管
JIS G 5527-2014	ダクタイル鋳鉄異形管
JIS G 5528-2014	ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ樹脂粉体塗装
JIS K 6353-2011	水道用ゴム

## (公社)日本水道協会規格(JWWA)目録

規格番号	規 格 名 称
JWWA A 113-2017	水道用ダクタイル鋳鉄管モルタルライニング
JWWA G 112-2017	水道用ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ樹脂粉体塗装
JWWA G 113-2015	水道用ダクタイル鋳鉄管
JWWA G 114-2015	水道用ダクタイル鋳鉄異形管
JWWA G 120-2017	水道用GX形ダクタイル鋳鉄管
JWWA G 121-2017	水道用GX形ダクタイル鋳鉄異形管
JWWA K 135-2007	水道用液状エポキシ樹脂塗料塗装方法
JWWA K 139-2017	水道用ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗料
JWWA K 156-2015	水道施設用ゴム材料
JWWA K 157-2013	水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗料塗装方法
JWWA K 158-2017	水道用ダクタイル鋳鉄管用ポリエチレンスリーブ
JWWA Z 108-2016	水道用資機材の浸出試験方法
JWWA Z 110-2016	水道用資機材の浸出試験及び水道用薬品の評価試験に係る分析方法

#### (公社)日本下水道協会規格(JSWAS)目録

規格番号	規 格 名 称
JSWAS G - 1 -2016	下水道用ダクタイル鋳鉄管
JSWAS G - 2 -2016	下水道推進工法用ダクタイル鋳鉄管

# (一社)日本ダクタイル鉄管協会規格(JDPA)目録

規格番号	規 格 名 称
JDPA A 3000-2018	ダクタイル鋳鉄管、異形管及び接合部品 - 共通仕様 -
JDPA G 1027-2018	農業用水用ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1029-2016	推進工法用ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1030-2011	ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1031-2011	ダクタイル鋳鉄異形管
JDPA G 1033-2007	P Ⅱ 形ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1040-2013	ダクタイル鋳鉄管用ステンレス鋼製ボルト・ナット
JDPA G 1041-2017	ダクタイル鋳鉄製貯水槽(耐震用・緊急用)
JDPA G 1042-2016	NS形ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1042-2-2017	NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)
JDPA G 1042-3-2016	NS形ダクタイル鋳鉄管(Gタイプ)
JDPA G 1043-2014	ダクタイル鋳鉄製水管橋
JDPA G 1046-2017	PN形ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1047-2006	NS形防食ゴム付き切管用挿し口リング
JDPA G 1049-2019	GX形ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1052-2015	S50形ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1053-2017	ALW形ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 3002-2-2019	US形ダクタイル鋳鉄管(R方式)
JDPA Z 2002-2010	ダクタイル鋳鉄管継手用滑剤
JDPA Z 2004-2017	ダクタイル鋳鉄管類の表示
JDPA Z 2009-2011	ダクタイル鋳鉄管外面特殊塗装
JDPA Z 2010-2009	ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗装
JDPA Z 2011-2009	ダクタイル鋳鉄異形管内面液状エポキシ樹脂塗装
JDPA Z 2015-2007	水道用ダクタイル鋳鉄管モルタルライニング-シールコート
JDPA Z 2016-2005	ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ樹脂粉体塗装
JDPA Z 2017-2015	ダクタイル鋳鉄管用切管端面防食材料

# ー般社団法人 日本ダクタイル鉄管協会

# http://www.jdpa.gr.jp

本部・関東支部	東京都千代田区九段南4丁目8番9号(日本水道会館)
	電話 03(3264)6655(代) FAX 03(3264)5075
関 西 支 部	大阪市中央区南船場 4丁目 12番 12号 (ニッセイ心斎橋ウェスト)
	電話 06(6245)0401 FAX 06(6245)0300
北 海 道 支 部	札幌市中央区北2条西2丁目41番地(札幌2・2ビル)
	電話 011(251)8710 FAX 011(522)5310
東 北 支 部	仙台市青葉区本町2丁目5番1号(オーク仙台ビル)
	電話 022(261)0462 FAX 022(399)6590
中 部 支 部	名古屋市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル)
	電話 052(561)3075 FAX 052(433)8338
中国四国支部	広島市中区立町2番23号(野村不動産広島ビル)
	電話 082(545)3596 FAX 082(545)3586
九 州 支 部	福岡市中央区天神2丁目14番2号(福岡証券ビル)
	電話 092 (771) 8928 FAX 092 (406) 2256